

## 芳雲社資料

### はじめに

私が芳雲社の資料を知った経緯について一言書いておきたい。舟知節子氏とは4年程前に吉野山のサクラ見物に女房と出かけた折にケーブルカーに載らずに吉野山の中腹スギ林を近回りをしたところ一人の女性が後を付いてこられたのが舟知節子氏だった。そこで舟知氏と懇意になり後日舟知家の古文書調査があることを知った。調査の日私も舟知家を訪れ裸電球一つの二階の物置同然の部屋を訪れた。そこに長持ちに収められた奈良文化財研究所の吉川先生が見つけれられた芳雲社の古文を見ることになった。芳雲社について初発見の資料であった。

芳雲社については「吉野町史」にわずかに書かれているが芳雲社の歴史については触れていない。芳雲社について創立など全く触れていない。

芳雲社は明治維新で修験道が迫害を受け吉野山の桜花が危機に差し迫り桜花を守ろうとした吉野山の住民を中心に明治13年に設置された組織である。明治27年に県により吉野公園が設置されるまで活躍したようである。参照「奈良県の歴史」2003 山川出版社.P328

資料の翻刻にあたり可能なかぎり現在文字に変換した。私は古文の専門家ではなく不明な文字が多く読めない文字やあやふやな文字は□とした。

### ○大阪出版会社の領収書

芳雲社資料には右の領収書が含まれていた。

大阪出版会社とは資料もなく不明の出版社であるが「罪紙手本十冊代」とあるのは何を意味するのであろう。大阪市に存在した出版社である。領収書には明治9年12月12日の日付がある。

「山口様」とある山口は吉野山住民である山口謙蔵氏と思われる。

芳雲社資料を扱うについて恐らく明治に吹き荒れた修験道について調査しなければならない。修験道は吉野山に大きな影響をもたらしたらしい。明治維新政府の宗教政策は合理性に欠ける修験道にも迫害の政策を行ったようである。これに同調して住民に桜花を守る気概が失せた人がでてきたらしい。修験道に守られたきた桜花にも住民の意識にも変化が見られ伐採する人が現れる。この桜花の名所としての吉野山を守るために住民を中心として組織されたのが芳雲社である。



芳雲社の結社

○明治 13 年芳雲社を結成した吉野山の住民は古澤龍敬を中心として当時奈良県を包含していた堺県に設立の申請書を提出した。翌年に奈良県は大阪府に包含されて再度大阪府へも同じ申請を行っている。

○芳雲社設立の請願書

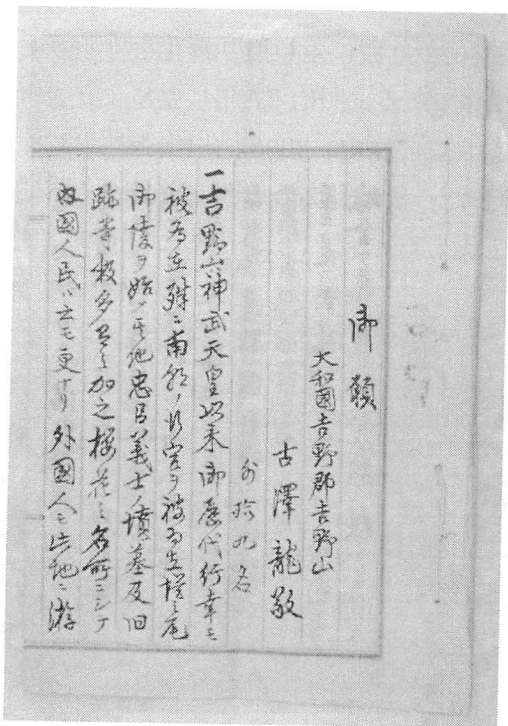
御願

大和国吉野郡吉野山

古澤龍敬

外十九名

一 吉野山ハ神武天皇以来御歴代行幸モ被為在、殊ニ南朝ノ行宮ヲ被為立塔之尾御陵ヲ始メ其他忠臣義士ノ墳墓及旧跡等数多有之、加之桜花之名所ニシテ内国人ハ云モ更ナリ、外国人モ此地ニ遊歴シ、旧跡ノ多キト満山桜花ノ絶景ナルヲ賞歎セサルハナシ、然ルニ其桜樹ノ園タル維新上地以降公園地ノ姿ト相成候ニ就テハ追々枯朽スルモ、土民是ヲ補植スルノ方法ヲ失シ、且旧跡ニシテ荆棘ノ壅塞スルアリ、或ハ道路困難等其景況実ニ当山ノ衰微ハ勿論、皇国ノ名所ヲ失フニ至ル、是ニ於テ拙者共嘆息ニ不堪、依テ同志醸金ヲ以テ衰頽ヲ復シ、枯朽シタル桜樹ヲ補植シ、廢レントスル旧跡ヲ興シ吉野ノ景況ヲ全フセント冀望ス、就テハ社名ヲ芳雲社ト称シ、同社へ右桜樹公園地及旧跡等保護方被仰付度此段同盟ノ者連署ヲ以テ奉懇願候也



明治十三年三月十六日

右発起願人

古澤龍敬 印

前坊常磐 印

近藤喜三郎 印

宮城晋一 印

全郡増口村

大北作治郎 印

全郡上市村

横谷佐平 印  
全郡上市村  
堀内三席 印  
全郡同村  
堀内修一 印  
全郡人光村  
浄井新十郎 印  
全郡上市村  
船津新四郎 印  
全郡上市村  
増田周磧 印  
同郡増口村  
丹羽淡齊 印  
全郡小村  
盛口□□ 印  
全郡丹治村  
宮田庄九郎 印  
全郡櫛尾村  
山本源太郎 印  
同郡上市村  
北村宗四郎 印  
同郡上市村  
澤井清太郎 印  
全郡飯貝村  
林助二郎 印  
全郡全村  
尾上萬七 印  
全郡井戸村  
井上僖作郎 印

前書之通相違無御座因テ奥印仕候也

明治十三年三月十六日

右区副戸長  
前坊常磐 印  
全戸長  
山本源三郎 印

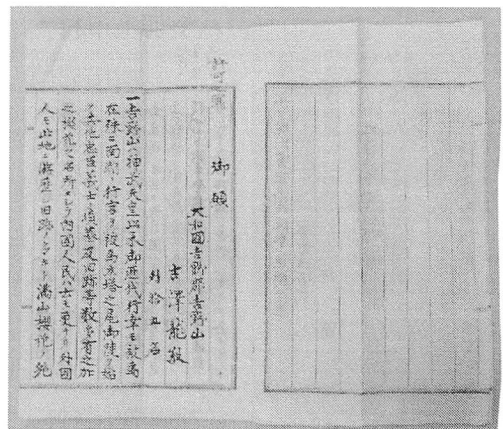
堺県令税所篤殿

願之趣奇特之義ニ付聞届候条、精々尽力維持方法更ニ可伺出候事  
但公園之義ハ別段可願出事  
明治十三年三月廿六日 印

・芳運社設立願のこと（この資料には19名の名前はない）  
御願

大和国吉野郡吉野山  
古澤龍敬外十九名

一 吉野山ハ神武天皇御歴代行幸モ被為在、殊ニ南朝ノ行宮被為立塔之尾御陵ヲ始メ其他忠臣義士ノ墳墓及旧迹等多数有之、加之桜花之名所ニシテ内国人民ハ云モ更ナリ外国人モ此地ニ遊歴シ、旧跡ノ多キト満山桜花ノ絶景ナルトヲ賞嘆セサルハナシ、然ルニ維新上地以降公園地ノ姿ト相成候ニ就テ、追々枯朽スルモ土民是ヲ補植スルノ方法ヲ失シ、且旧迹ニシテ荆棘ノ壅塞スルアリ、或ハ道路ノ困難等其景況実ニ当山ノ衰微ハ勿論、皇国ノ名所ヲ失フニ至ル是ニ於テ私共難息ニ不堪、依テ同志醸金ヲ募集シ以テ衰頽ヲ復サント欲ス、今茲ニ枯朽シタル桜樹ヲ補植シ廢レントスル旧跡ヲ興シ吉野ノ景況ヲ全フセント冀望ス、就テハ社名ヲ芳運社ト称シ同社へ右桜樹公園地及旧迹等保護方被仰付度此段同盟ノ者連署ヲ以奉懇願候也



明治十三年三月十六日

右發起願人  
古澤龍敬外十九名

前書之通相違無御座因テ奥印仕候也

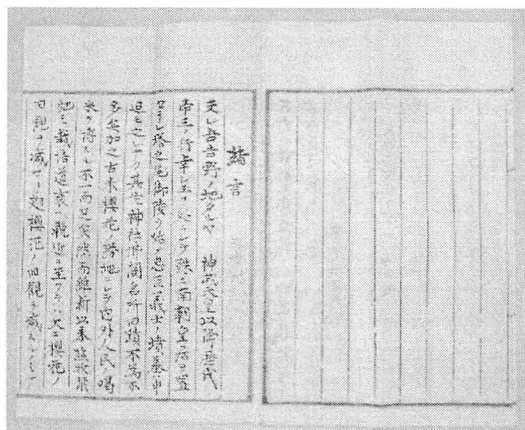
右区副戸長  
前坊常磐 印  
全戸長  
山本源三郎 印

堺県令税所篤殿

願之趣奇特ノ義ニ付聞届候条精々盡力維持方法更ニ可伺出事  
但シ公園ノ義ハ別段可願出事  
明治十三年三月廿六日 印

○年月不明の緒言  
緒言

夫レ吾吉野ノ地タルヤ神武天皇以降歴代帝王ノ行幸シ玉フ処ニシテ、殊ニ南朝皇居ヲ置セラル塔之尾御陵ヲ始メ忠臣義士ノ墳墓ノ申迄モ之レナク、其他神社仏閣名所旧蹟不為不多矣、加之古来桜花ノ勝地ニシテ内外人民ハ喝采ヲ博スル不一而足矣、然而維新以来樵牧禁施之栽培道衰へ輓近ニ至ツテハ大ニ桜花旧蹟ヲ減セリ□、桜花ノ旧観ヲ減スルノミナラス之カ為メ殆ント、将サニ旧観モ荒蕪シ、通路モ壅塞セントスルニ至ル、豈ニ長大息ノ至リニアラスヤ、於是余輩数名同心結社ニ名ヲ芳雲社ト称シ同志ニ激シテ、釀金ヲ募リ栽培ノ策ヲ議シテ旧観ヲ復シ之ヲ永遠ニ保存セント欲シ、曩ニ県庁ニ上願シ既ニ許可ヲ得タリ、社員ノ喜可知也、輩クハ四方之同志者遠近ニ拘ラス多寡ニ限ラス釀金ヲ送り鄙拳ヲ裨テ玉ハレ幸甚々々



芳雲社総代敬白

緒言において芳雲社の設立理由を述べている。

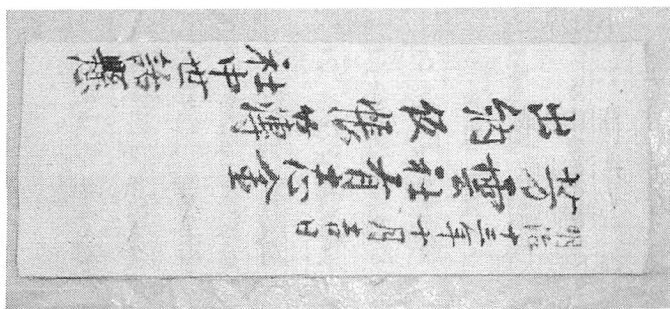
○芳雲社有志金出納帳簿

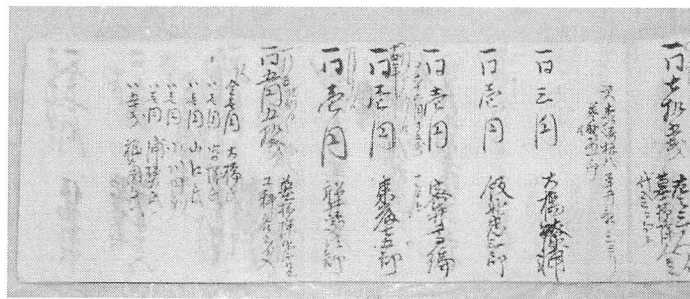
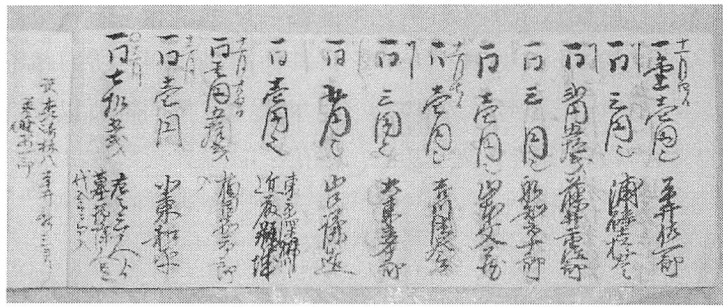
明治十三年十月吉日

芳雲社有志金

出納帳簿

社中世話懸





他に 12 点がある。

有志金請方

一金二円也 小川円和

一同三元也 宮城晋一

一同三元也 今西宥栄

一同一円五十銭也 小野淳三

〃廿六日

一同三元也 楠田亀藏

一同七円也 古澤龍敬

一同五円也 古澤龍賢

一同三元也 森下覚太郎

十一月四日

一同三元也 前坊常盤

一同五円也 近藤喜三郎

十一月四日

一金一円也 平井佐一郎

一同三元也 浦壁柊口

一同二円五十銭 藤井市治郎

一同三元也 船知市十郎

一同一円也  
十一月七日  
一同一円也  
一同一円也  
一同一円也  
一同一円也  
十一月廿五日

山本文蔵  
吉川清誉  
大東多十郎  
山口鎌造  
東京深川近藤口城

一同一円五十銭  
十二月  
一同一円也  
〇十二月  
一同一円七十五銭

楠田重市郎入  
北東和平

左之三人より墓掃除人足代金ニ而入

訳 森崎林八、平井新三ヨリ口尾安倍

一同一円  
一同一円  
一同一円

大橋鏝輔  
飯野忠三郎  
密井高徧

六十六円廿五銭 十三年分

一月十八日

一同一円

東藤七五郎

一月十八日

一同一円

船井愛治郎

一月廿九日

一同一円五十銭

墓掃除金不足工料各々方入

訳 金一円大橋氏、〃一円宮城氏、〃一円山口氏、〃一円小川円和、〃一円浦壁氏、〃五十銭福角氏

○芳雲社が吉水神社を仮事務所とする旨を堺県に願った上申書。

御願書

一 桜樹保存及名所旧蹟等維持保護ノ目的ヲ以本年三月中同志結社之義上願、此御允可ヲ蒙リ罷在候処、追々入社人モ有之、随テ事務取扱所無之候テハ不都合ニ付、今般協議之上当山吉水神社社務所ヲ以当分芳雲社仮事務所ト仕度候條、御許容被成下度此段連署ヲ以奉願上候也

明治十三年十一月廿八日

大和国吉野郡吉野山

芳雲社総代

宮城晋一 ④

〃 山口謙蔵 ④

村社吉水神社兼務金峰神社

祠掌 大橋鏢輔 ④

吉水神社兼務金峯神社

氏子総代 近藤喜三郎 ④

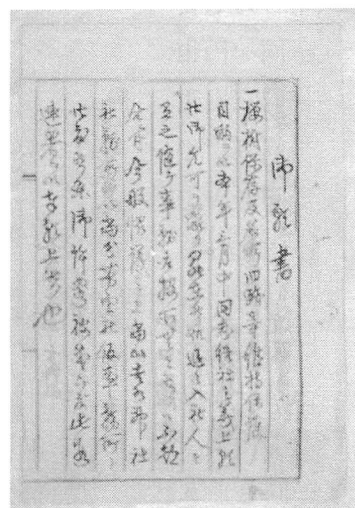
前書之通願出ニ付奥印仕候也

戸長 前坊常磐 印

堺権令税所篤殿

書面之趣聞届候事

明治十三年十二月三日 印



このように芳雲社は吉野山の旧観を保持することになった。このことは大和国が大阪府に包含されるようになっても維持される。

○芳雲社設立目的の追加の願を大阪府に上申したもの（次項「方法之義ニ付御願」を参照）

芳雲社設立之義ニ付御願

吉野山桜樹栽培及ヒ名勝旧蹟等有志ノ醸金ヲ以テ基本トシ永遠維持保存方法相設ケ度旨、客歳三月十六日附堺県庁へ上願仕候処、同月廿六日附別紙之通御許可ヲ蒙リ罷在候ニ付テハ尚亦左之條件御許可被成下度奉上願候

第一条 本社原資金之義ハ有志者ノ寄附ニ出ルヲ以本社ニ集纏シ之ヲ永世ニ監守スヘキハ当然ノ義ト奉存候得共、将来確實ノ方法ヲ得ルニ甚タ苦心仕候間、満期別紙募集年限募集済之上ハ御府庁ニ於テ利付御預リ被成下度奉上願候

第二条 一 前条御預リ被下候上ハ年々相応ノ利子本社へ御下附願上候、尤支払等年々決算表ヲ製シ御届申上候

第三条 一 別冊規則ヲ以テ實際举行仕度奉存候条、御許可奉上願候

右件々特別之御詮議ヲ以テ御聞済被成下度此段奉懇願候也

芳雲社総代

大坂府知事建野郷三殿

「芳雲社規則」（草稿がある）

第一条 本社ハ吉野山中ノ桜樹ヲ栽培シ神祠仏宇名勝旧蹟ヲ永世ニ保存セント、汎ク有志者ノ醸金ヲ募リ之ヲ原資トナシ、社員相会シテ其方法ヲ協議スルモノナリ

第二条 本社事務取扱所ハ吉野山吉水神社社務所ヲ以当分仮局トス

第三条 本社々員ハ寄付金申込ノ取扱ヲナシ桜樹及祠堂名勝旧蹟等ノ保存上ニ注意シ又本社ノ議員トナルヲ得ル者トス



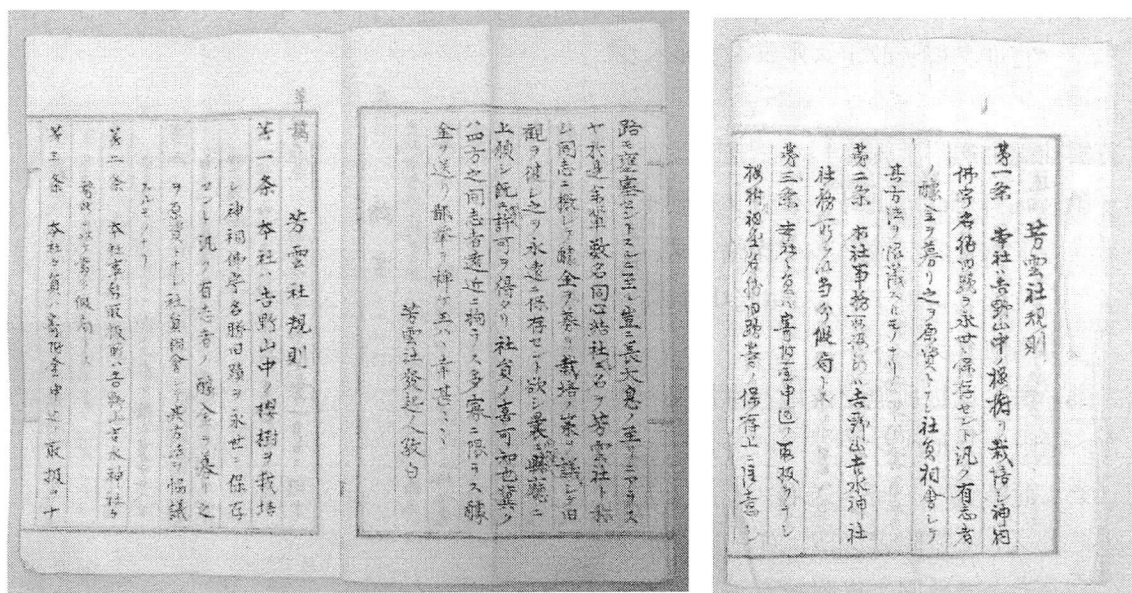
第四条 社員ハ汎ク有志者ノ加入スルヲ得ルト雖トモ時宜ニヨリ加入ノ期ヲ限ルコトアルヘシ

第五条 本社役員ハ投票ノ上社長一員、副社長一員、幹事五員ヲ定メ満二ケ年間其事業ニ与カラシム

但本社役員ハ総テ給料ヲ支給セザルヘシ

第六条 原資寄付金ハ明治十四年一月ヨリ同十八年迄満五ケ年ヲ募集スルモノトス

第七条 前条募集ノ金額ハ凡二万円ヲ以テ目途トシ、其充否ニヨリ募集期限ヲ伸縮スルコ



トアルヘシ

第八条 原資金募集済ノ上ハ寄附人住所、姓名及ヒ其金額等ヲ巻軸ニ登録シテ吉水神社ノ神庫ニ蔵スヘシ

第九条 寄附金ハ送附手続書ニ照準スヘシ

第十条 釀金ハ一ヶ月限リ取纏メ予テ約定シタル銀行ヘ利附預ケ金ニ改メ、其預リ証書ハ本社ニ於テ取蔵スルモノトス

第十一条 原資金募集済ノ上ハ(社員商議ノ上)地方庁(ヘ利付又ハ郡役所ヘ)預ケ其証書ハ本社ニ蔵置スヘシ

第十二条 桜樹栽培及祠堂名勝旧蹟等ヲ修營スル諸費ハ利子ヲ以支弁シ、原資金ハ消費セサルモノトス

第十三条 将来非常予備ノ為メ山地ヲ買入杉柾或ハ漆等応地ノ苗木ヲ植付ルコトアルヘシ

第十四条 古来桜園及名勝古蹟等モ多年ヲ経ル内、民有或ハ私有地ニ変換セシヲ、漸次本社ヘ買入保護スルヲ要ス

但絶景ノ地ヲ買入更ニ桜園トナスコトアルヘシ

第十五条 廃サレタル古蹟ヲ興シ或ハ新タニ土木ノ事業ヲナストキハ社員商議ノ上官准ヲ得テ着手ウルモノトス

第十六条 桜樹妨害無之様監守人兩員ヲ置キ時々山中ヲ巡視セシム

第十七条 私有地畑地又ハ山林ニ生立スル桜樹保存トシテ其地主へ相応ノ保護金ヲ附与スヘシ

第十八条 原資金募集中ニ関スル諸費及諸報告費ハ銀行預ケ中ノ利子ヲ以テ支弁シ募集済ノ上其決算ヲ報告スヘシ

第十九条 社員ハ毎年三月一日ヲ以本社会場へ集会シ社中諸般ノコトヲ商議シ、且前年度ノ出納報告ヲ閲覽スヘシ

第二十条 以上十九条決議履行スト雖トモ増加改刪セサルヲ得サルトキハ、社員商議ノ上官准ヲ得テ改定スルコトアルヘシ

「芳雲社醸金送附手続書」

第一条 凡有志諸君此社へ金員ヲ寄附セント欲セバ其額ノ多少ヲ論セス、各位便宜ニ就テ最寄ノ醸金取扱所ニ送附セラルヘシ

第二条 醸金取扱所無之土地ハ本社又ハ周旋方へ送附セラルヘシ

第三条 此醸金ハ一時ニ送附スルモノナレシトモ寄附者ノ望ニ任セ期ヲ定メテ之ヲ数回ニ送附セラルトモ適宜タルヘシ

「寄附金申込書」

一 金何円

但即時ニ非ナルノ御方ハ其期限ヲ此处ニ記入セラルヘシ

右ハ今般吉野山桜樹栽培及神社仏閣名勝旧蹟永続保存ノ方法企画相成候趣ニ付、書面之通資金寄附致度、尤金員ハ御定約ノ第何銀行或ハ周旋方何誰へ相送り可申候、依テ寄附状如件

年号月日

府県国郡村族藉

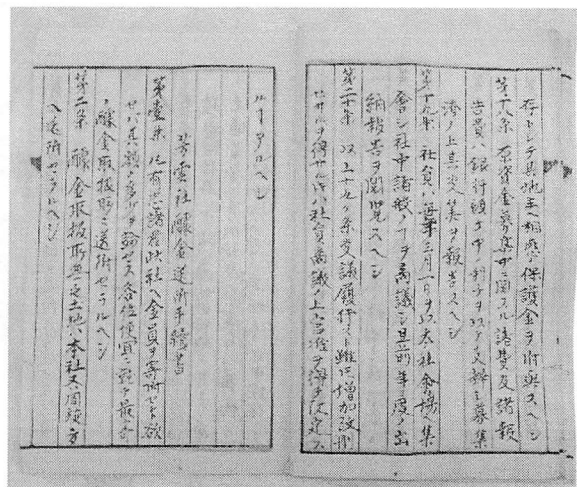
何某

大坂府下大和国吉野山

芳雲社御中

第四条 此醸金ノ取扱方ハ東京三井銀行大坂ノ第十三国立銀行及其支店等ナリ

第五条 第一条ノ手続ニ従ヒ有志諸君ヨリ寄附金ヲ送附セラルトキハ醸金取扱所又ハ周旋方ヨリ左ノ書式ノ請取証ヲ本人ニ交付シ、其金額姓名等ハ月末ニ至リ芳雲社ニ報告シテ定約ニ照シ利附預金トスヘシ



「請取證」

一 金何程

右者吉野山桜樹栽培及祠堂名勝旧蹟保存トシテ、前書之金員御寄附被下正ニ請取候、依テ原資ニ加入ヘ永存可仕候也？

年月日

芳雲社

第何銀行又ハ周旋方何ノ誰

何某殿

第六條 第四條ニ掲ルニ銀行ノ外ニ係ル各地ノ支店或ハ周旋方ニ請取タル寄附金ハ一ヶ月毎ニ右ニ銀行本店ヘ送付セシメ、本店ニ於テハ其寄附者ノ姓名及金額ヲ芳雲社ニ報告シ預リ金トナスコト第五條ノ通りタルヘシ

第七條 芳雲社ニ於テハ右ノ報告ヲ得ル毎ニ之ヲ毎月或ハ隔月ニ一回ツト東京、大阪ノ諸新聞ヲ以テ之ヲ広告スヘシ、故ニ此広告中ニ遺漏誤謬アルトキハ速ニ本社ニ向ケ推問セラルヘシ

第八條 寄附金數回割納ノ方ヘハ左式ノ仮請取証ヲ交附シ置、皆納ノ節本証書ヲ渡スヘシ

「仮請取証」

一 金幾許 但何回目寄附

右正ニ請取候也

但此仮請取証ハ明治何年何月寄附納済迄ヲ証スルモノニシテ本証ヲ交附ノ日ヨリ反古タルヘシ

年月日

芳雲社釀金取扱人何所何ノ誰

何某殿

第九條 寄附現金ハ定約ノ銀行及本社周旋方ノ外受取人ヲ派出スルコトナシ

第十條 本社資金寄附ノ諸君登山ノ節ハ本社ヨリ吉野山中名勝旧蹟ヲ案内シ及ヒ延元帝御物其他古器ヲ拝觀スルヲ得ヘシ

○日時不明の緒言

緒言

夫レ吉野ノ地タルヤ神武天皇以降御歴代帝王ノ行幸シ玉フ処ニシテ殊ニ南朝皇居ヲ置セラレ塔之尾御陵ヲ始メ忠臣義士ノ墳墓ハ申迄モ之レナク其他神社仏閣名所旧蹟不為不多矣加之、古来桜花ノ勝地ニシテ内外人ノ喝采ヲ博スル不一而是矣、然而維新以来樵牧禁弛ミ栽培道衰ヘ輓近ニ至ツテハ大ニ桜花ノ旧觀ヲ減セリ、翅桜花ノ旧觀ヲ減スルノミナラス、之レカ為メ殆ント將サニ旧蹟モ荒蕪シ道路モ壅塞セントスルニ至ル、豈ニ長大息ノ至リニアラスヤ於是余輩數名同心結社シ、名ヲ芳雲社ト称シ同志ニ激シテ釀金ヲ募リ、栽培ノ策ヲ議シテ旧觀ヲ復シ、之ヲ永遠ニ保存セント欲シ、曩ニ旧堺県庁ニ上願シ、既ニ其許可ヲ得タリ、社

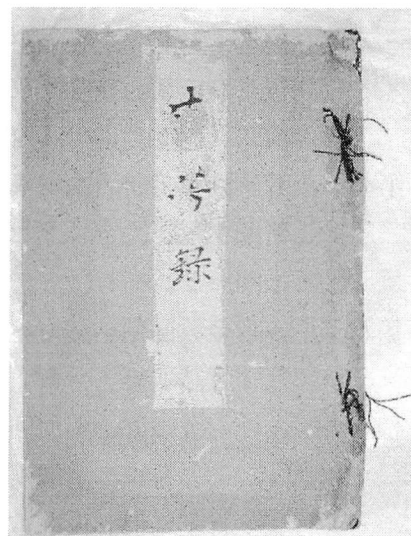
員ノ喜可知也、冀クハ四方之同志者遠近ニ拘ラス、多寡ニ限ラス釀金ヲ送り鄙拳ヲ裨ケ玉  
ハト幸甚云々

芳雲社発起人敬白

○日時不明の芳録

「御芳録」

吉野山勝手明神ハ木花開耶姫命ヲ奉鎮祭候神社ニ付、桜花ノ蕃殖スル良ニ候ヘ有ル哉、在昔  
天武天皇白鳳二年桜樹若干株ヲ山中ニ植ヘ勝手明神之示  
現ニ□ヒ玉ヒシ以来此神ニ祈リ、其願成就スル時ハ、桜樹  
ヲ植ヘ神徳ニ報スルヲ以テ法則トナシ、積年ノ久シキ山頭  
水浜処トシテ桜樹第一トナシ、天下ノ人士登観ヲ欲セサル  
者ナシ、然ルニ近年枯損漸ク多クシテ殆ント名区ノ品位ヲ  
減セントスル勢アリ、是ヲ以テ曩ニ芳雲社ヲ設ケ、桜樹ヲ  
栽培シ名称ヲ保存センコト謀ルト雖トモ、未幾分ノ功ヲ奏  
スル能ハス、今ニシテ其事ヲ急ニセサル時ハ、名区モ其実  
ヲ失ヒ、登拳之人モ亦、從テ減スル至ラン冀望スル所ハ一  
株ニ株ノ多少ヲ問ハス、各自ノ志□ニ随ヒ奉□アラハ遠近  
ノ人士競イ登観シ、地方繁栄ノ一端トナリ神徳ノ及フ所、  
亦宏遠ナルヘキ乎



大和国吉野山

芳雲社 印

社長 古澤龍敬 ⑩

幹事 前坊常磐 ⑩

全 山口謙蔵 ⑩

一 一株植付料 金五錢

○芳雲社設立目的の追加を大阪府に上申したものの草稿である

(欄外朱書草稿もある、芳雲社設立之義ニ付御願も同文であるが惣代と宛先のみ)

芳雲社方法之義ニ付御願

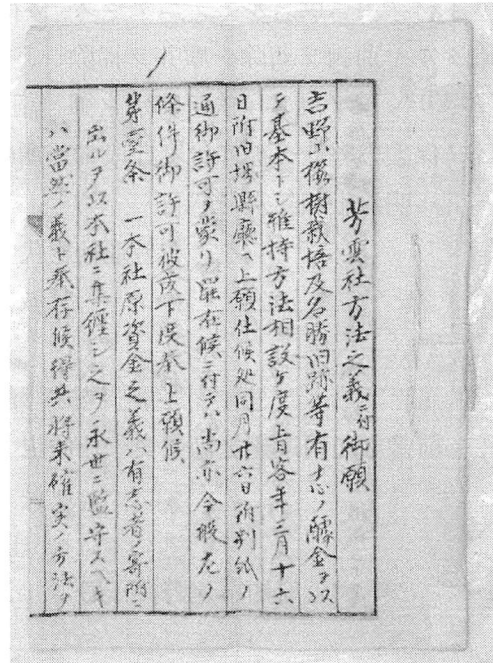
吉野山桜樹栽培及名勝旧跡等有志ノ醸金ヲ以テ基本トシ維持方法相設ケ度旨、客年三月十六日附堺県庁へ上願仕候処、同月廿六日附別紙ノ通御許可ヲ蒙リ罷在候ニ付テハ尚亦今般左ノ條件御許可被成下度上願候

第一条 一 本社原資金之義ハ有志者ノ寄附ニ出ルヲ以本社ニ集纏シ之ヲ永世ニ監守スヘキハ当然ノ義ト奉存候得共、未確實ノ方法ヲ得ルニ甚タ苦心仕候間、満期別紙募集年限募集済之上ハ御府庁ニ於テ利付御預リ被成下度奉上願候

第二条 一 前条御預リ被下候上ハ年々相応ノ利子本社へ御下附願上候、尤支払等年々決算表ヲ製シ御届申上候

第三条 一 別冊規則ヲ以テ實際挙行仕度奉存候条、御許可奉上願候

右件々特別之御詮議ヲ以テ御聞済被成下度、依テ規則書相添此段奉懇願候也



明治十四年

芳雲社総代

大和国吉野郡吉野山	古澤龍敬	印
全	宮城晋一	印
全	山口謙蔵	印
全上市村	堀内三郎	印
全阿知賀村	山本平三郎	印

大坂府知事建野郷三殿

○桜林官林保護の出願、官林関係

\* 日付から推定すると設立目的を追加した「芳雲社設立の請願書」にある大阪府からの許可証と同じである。芳雲社の桜樹保護については何度も願書がある。

・桜樹官林保護之義ニ付御願

大和国吉野郡吉野山

芳雲社

○桜樹官林保護之義ニ付御願

一 当山ハ海内無比桜花ノ名所タルコト世人ノ知ル処ナリ、然ルニ其桜樹ノ園タル即今官林ト相成荆棘藤□ノ繁茂スルモ地民自由ニ之ヲ芻除スルヲ得ス、桜樹ノ枯朽スルヲ見ルモ地民之ヲ植栽培養スルノ自由ヲ得サレハ只歎息スルノミ、若此俟等閑ニ附シ数ヶ年ヲ経ル

トキハ退々枯朽シ、桜樹ハ殆ント絶ントスルニ至ル、如此ハ独リ吉野ノ名勝ヲ失フノミナラス、皇国ノ名勝ヲ失フニアラスヤ、之レ地民ノ歎息ニ不堪処ナリ、抑当山ノ桜樹タルヤ固ヨリ木材ノ用ニ供スルモノニアラス、桜花ノ名勝ニシテ則其花ヲ賞観スルモノナリ、然レハ其園タルヤ荆棘ヲ刈除シ塵芥ヲ掃除シ、枯朽スル処アレハ補植培養シ風致ヲ不損様注意シ美ヲ尽サレルヲ得ス、依テ特別之御詮議ヲ以別紙五箇所桜山官林ノ栽培掃除及枯損木取片付等ノ保護方弊社へ被仰付度此段奉懇願候也

明治十四年六月八日

右芳運社総代

宮城晋一 印

〃

古澤龍敬 印

前書之通相違無之仍候奥印仕候也

戸長

前坊常磐 印

大阪府知事建野郷三殿

字千本二十六番

一 桜山反別二町三反歩

字千本道上三百四十一番

一 桜山反別一町九反歩

字上町五百三十番

一 桜山反別一反歩

字上ノ千本千三百七十五番

一 桜山反別六反五畝十歩

字千本三千九十四番

一 桜山反別一反歩

〃

右之通ニ御坐候也

明治十四年六月八日

芳運社総代

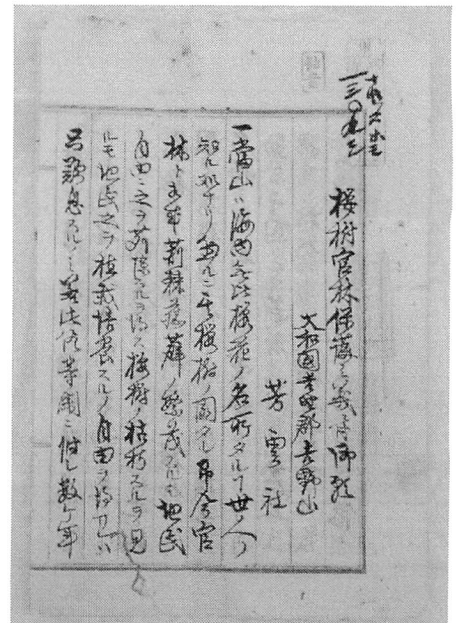
宮城晋一 印

古澤龍敬 印

書面願之趣聞届枯損木ノ取片付ヲ要スルモノハ無代下与候条、右取片付ノ木種員数及植付ノ木種員数等詳細取調、以伺出指揮ヲ受ケ着手候義ト可相心得事

明治十五年十月廿四日

大阪府知事建野郷三代理



○『官省指令』1882

十五年甲五四号

勸二四三四

官林保護之儀伺

管下大和国吉野郡吉野山官林字上ノ千本外四ヶ山ノ義ハ満山悉ク桜樹ニシテ雑木等更ニ無之其山相ニ於ル其風致ニ於ル古来著名ノ勝区ニ有之、殊ニ春分桜花爛熳（漫）ノ季節ニ際シテハ遠近雅倍（カ）賞花ノ客相率テ来遊シ、随テ土地ノ繁栄ヲ致セシナリ、是ヲ以土地人民ハ勉メテ其山ヲ養護シ又風致保全ニ関シテハ曾テ忽緒ニ付セサルノミナラス旧来該樹ヲ神木ト称シ其枯朽腐敗セシモノト雖トモ敢テ租（粗）略ノ扱ヲ為サス、況ンヤ薪炭ノ用ニ供スルカ如キハ固ク自ラ禁スルノ習慣ニ有之、然ル処明治四年上地官林ニ編入セラレ風致禁伐林ニ列セラルトニ付テハ、保護取締上一層注意ヲ要スヘキハ勿論ニ有之処、当府官林保護費タル総テ壱千七百円ノ定額ニシテ目下監守人監護人合九拾四名ヲ配置シ此給料諸費及造苗場経費支出ノ残余僅カニ七八百円ニ過キス、是ヲ管内官林壱千百余ヶ所ニ配致セハ実ニ僅々ノ金額ニ有之、加之上地以来未タ曾テ手入無之ヨリ、挿苗洗伐等目下難差措ヶ所夥多有之、旁以吉野山ノ如キ何分手入行届兼老樹ハ漸次衰頽ニ属シ、稚樹ハ荆棘藤蔓ノ類之カ生育妨障シ為ニ枯損ニ属スルモノ年一年ヨリ多ク、此際補植培養ヲ加ヘサレハ桜樹漸ク減損林相變異、可惜名山ヲ亡失シ殺風景ヲ極メ可申ト兼々苦慮罷在候

抑該山ノ儀ハ我国稀有ノ名所ニシテ一般官林ト全視スヘカラサル義ニ付特別保護ノ方法等取設度折柄、芳雲社ヨリ栽培掃除及枯損木取片付桜樹植付ノ義別紙ノ通願出候、右芳雲社ハ曾テ土地興隆ヲ謀ルヲ旨トシ有志者ノ團結ヨリ成立シ所ニシテ、其目的ノ嘉シスヘキノミナラス其組織スル所ノ者多クハ該山ノ住職及人民等ニシテ保護取締ヲ托スルニハ真ニ其當ヲ得タルモノト認定致候間、葛藤雜草芟採枯木取片付桜樹補植ノ義相任せ、而テ惣体ノ取締ハ郡戸長及ヒ官林監守人等ヲシテ不都合ナカラシメ、追々林相ノ衰頽ヲ挽回シ永ク名山保全ノ実効ヲ奏シ土地興隆ノ基モ為相立度存候ニ付、特別ノ訳ヲ以テ前件許可致シ可然歟、別紙願書相添此段相伺候也

明治十五年四月一日

大阪府知事建野郷三 印

農商務卿西郷従道殿

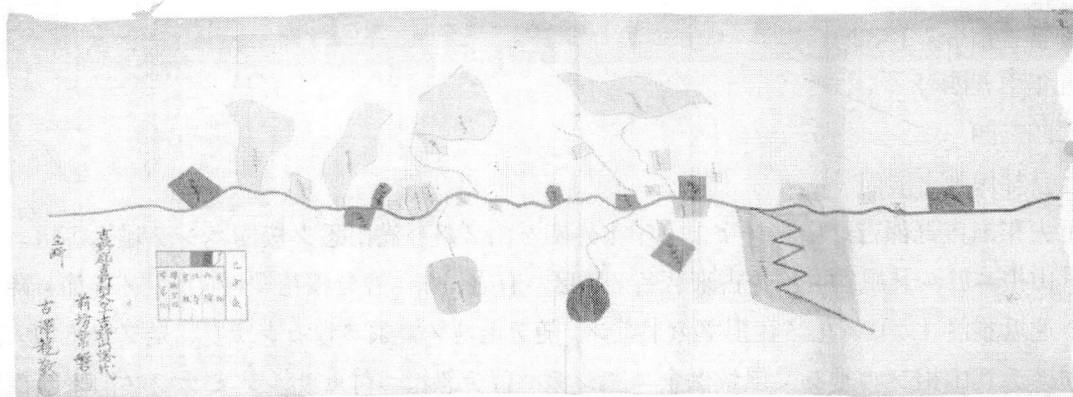
伺之趣難聞届候事

明治十五年四月十八日

農商務卿西郷従道代理

内務卿山田顕義 印

(参考、図面資料は吉野山公園申請にかかる奈良県庁文書より)



書面願之趣聞届、枯損木ノ取片付ヲ要スルモノハ花代下与候条、右取片付ノ木種員数及植付ノ木種員数等詳細取調前以伺出指揮ヲ受ケ着手スル義ト可相心得事

明治十五年十月廿四日

大阪府知事建野郷三代理

大阪府大書記官遠藤達 印

\* 芳雲社の別紙願書は不明である。

・十五年甲九五号

勸四九七一（「まほろばデジタルコレクション」にもあるが若干の文字の相違がある）

吉野山桜樹保存之儀伺

府下大和国吉野郡吉野山官林ノ桜樹保存方之義ニ付本年四月別紙写之通相伺候処難聞届旨御指令相成候、右ハ一般官林取締上ニ関係シ且實際不都合ヲ可生哉モ難計ヨリ右御指令相成候儀ト存候得共、其事情ハ嚮ニ上申致候通ニシテ吉野ノ桜花ハ天下ニ冠絶シタル名所ニシテ為之該山ハ勿論近傍村落ノ潤沢ヲ被ムル実ニ少々ナラス、是故ニ其地ノ人民ニ於ケルカ如キ感アリ、殊ニ芳雲社ノ如キハ維新以来此地ノ衰頽ニ赴クヲ患ヒ、之レカ挽回ニ熱心スルモノト結社スル処ナレハ不都合ヲ生スヘキ筈無之、然レトモ全ク之ヲ放任スヘキ儀ニハ無之候間、枯損栽植樹木ノ員数ハ其都度為届出、郡戸長官林監守人ハ勿論為時係官ヲ巡視セシメ不取締無之様監督可致候條、特別ノ御詮議ヲ以御許可相成候様致度此段再応相伺候也

明治十五年七月廿八日

大阪府知事建野郷三 印

農商務卿西郷従道代理

内務卿山田顕義殿

伺之趣無余儀相聞候ニ付特別之詮議ヲ以テ聞届、枯損木ノ取片付ヲ要スルモノハ無代下渡候條、右取片付員数及植付員数等其時々詳細可届出、就テハ其県官員時々派出シ不都合無之



様取締可致事

但人民ニ於テ植付タル樹木ハ悉皆官木タルヘシ、且官ノ都合依リ何時ニテモ手入差止メ其場合ニ於テハ失費等ノ苦情ハ一切採用不致旨受書取置可申事

明治十五年十月十日

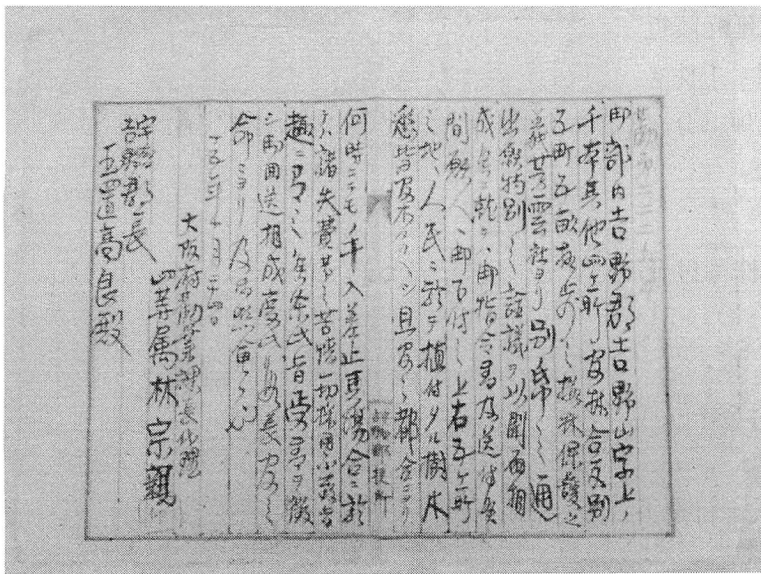
農商務卿西郷従道代理

参事院議長山縣有朋 印

○古文章「奈良県庁文書」にもあるが私は未見。

勸第二二二五号

御部内吉野郡吉野山字上ノ千本其他四ヶ所官林合反別五町五畝歩之桜林保護之義芳雲社ヨ



リ別紙之通出願特別之詮議ヲ以聞届相成候ニ就テハ御指令書及送付候間願人へ御下付之上右五ヶ所之地へ人民ニ於テ植付タル樹木悉皆官木タルヘシ且官之都合ニヨリ何時ニテモ手入差止其場合ニ於テハ諸失費等之苦情一切採用不致旨趣ニ有之候条、此旨受書ヲ徴シ御回送相成度此段長官之命ニヨリ及御照会候也

十五年十月二十四日

大阪府勸業課長代理

四等属林宗親 印

宇智吉野郡長玉置高良殿

○一度堺県に許可を求め大阪府に吸収されたので再度提出されたもの。

桜樹官林之儀ニ付御願

吉野郡吉野村大字吉野山

芳雲社員等

一 芳雲社ノ儀ハ別紙写ノ通明治十三年三月廿六日旧堺県ニ於テ御聞届ニ相成以テ、吉野山桜樹官林保護之儀ハ明治十五年十月廿四日大坂府ニ於テ御聞届ニ相成候処、方今ニ至テ大林区署御設置相成候、然ル上ハ地方庁ニ於テハ官林ニ御関係無御座儀ニ候哉ト愚考仕候、而シテ大坂府御指令ノ功力ハ自然消滅可致様相心得候、果シテ然ラハ桜樹官林掃除栽培等ノ道ヲ失ヒ最初出願ノ旨趣水泡ニ帰ス、仰願ハ其筋へ御照会被成下芳雲社員等ノ素志永遠

ニ貫徹致シ候様御勝計ノ程徧ニ奉懇願候也

明治廿四年三月廿五日

右芳雲社総代

古澤龍敬 印

密井高徧 印

村長奥印アリ

奈良県知事小牧昌業殿

・日時不明

桜樹栽植見積書

大和国吉野郡吉野山塔之尾（延元陵近傍）山地一町五反歩ヲ以テ桜樹二千株ヲ栽植ス、尤苗木一株ニ付地面二坪二分五厘宛此費金左ニ

一 金六十円

但苗木二千株買入代一株ニ付金

三銭

一 金十二円

但植込人夫百人一人ニ付金十二銭

一 金十八円

但地明人夫百十人 一人ニ付金十二銭

一 金六十五円

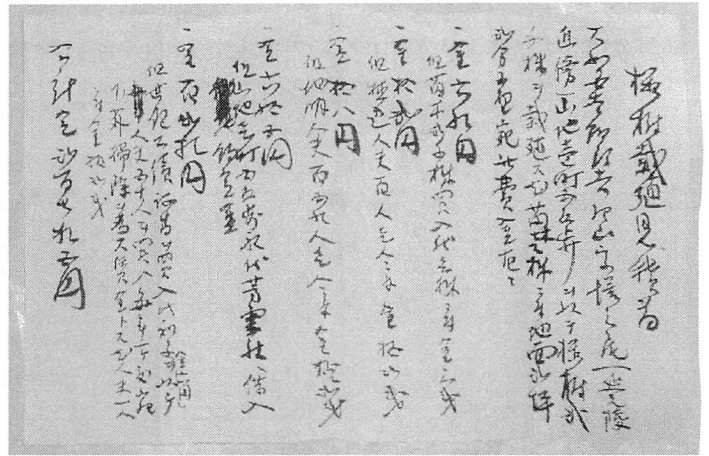
但山地一町五反歩永代芳雲社へ借入約定置

一 金百二十円

但世銀公債証書ヲ買入代利子金六円ヲ以テ人夫五十人ヲ買入、毎年一ヶ度宛下苜掃

除ヲ為ス賃金トス、尤人夫一人ニ付金十二銭

合計金二百七十五円



「芳雲社規則」（別に草稿がある）

第一条 本社ハ吉野山中ノ桜樹ヲ栽培シ神祠仏宇名勝旧蹟ヲ永世ニ保存セント、汎ク有志者ノ醵金ヲ募リ之ヲ原資トナシ、社員相会シテ其方法ヲ協議スルモノナリ

第二条 本社事務取扱所ハ吉野山吉水神社社務所ヲ以当分仮局トス

第三条 本社々員ハ寄付金申込ノ取扱ヲナシ桜樹及祠堂名勝旧蹟等ノ保存上ニ注意シ又本社ノ議員トナルヲ得ル者トス

第四条 社員ハ汎ク有志者ノ加入スルヲ得ルト雖トモ時宜ニヨリ加入ノ期ヲ限ルコトアルヘシ

- 第五條 本社役員ハ投票ノ上社長一員、副社長一員、幹事五員ヲ定メ滿二ヶ年間其事業ニ与カラシム  
但本社役員ハ總テ給料ヲ支給セザルヘシ
- 第六條 原資寄付金ハ明治十四年一月ヨリ同十八年迄滿五ヶ年ヲ募集スルモノトス
- 第七條 前條募集ノ金額ハ凡二万円ヲ以テ目途トシ、其充否ニヨリ募集期限ヲ伸縮スルコトアルヘシ
- 第八條 原資金募集済ノ上ハ寄附人住所、姓名及ヒ其金額等ヲ卷軸ニ登録シテ吉水神社ノ神庫ニ蔵スヘシ
- 第九條 寄附金ハ送附手續書ニ照準スヘシ
- 第十條 釀金ハ一ヶ月限リ取纏メ予テ約定シタル銀行ヘ利附預ケ金ニ改メ、其預リ証書ハ本社ニ於テ取蔵スルモノトス
- 第十一條 原資金募集済ノ上ハ（社員商議ノ上）地方庁（ヘ利付又ハ郡役所ヘ）預ケ其証書ハ本社ニ蔵置スヘシ
- 第十二條 桜樹栽培及祠堂名勝旧蹟等ヲ修營スル諸費ハ利子ヲ以テ支弁シ、原資金ハ消費セサルモノトス
- 第十三條 将来非常予備ノ為メ山地ヲ買入杉柾或ハ漆等応地ノ苗木ヲ植付ルコトアルヘシ
- 第十四條 古來桜園及名勝古蹟等モ多年ヲ経ル内、民有或ハ私有地ニ変換セシヲ、漸次本社ヘ買入保護スルヲ要ス  
但絶景ノ地ヲ買入更ニ桜園トナスコトアルヘシ
- 第十五條 廢サレタル古蹟ヲ興シ或ハ新タニ土木ノ事業ヲナストキハ社員商議ノ上官准ヲ得テ着手ウルモノトス
- 第十六條 桜樹妨害無之様監守人兩員ヲ置キ時々山中ヲ巡視セシム
- 第十七條 私有地畑地又ハ山林ニ生立スル桜樹保存トシテ其地主ヘ相応ノ保護金ヲ附与スヘシ
- 第十八條 原資金募集中ニ関スル諸費及諸報告費ハ銀行預ケ中ノ利子ヲ以テ支弁シ募集済ノ上其決算ヲ報告スヘシ
- 第十九條 社員ハ毎年三月一日ヲ以本社会場ヘ集會シ社中諸般ノコトヲ商議シ、且前年度ノ出納報告ヲ閱覽スヘシ
- 第二十條 以上十九條決議履行スト雖トモ増加改刪セサルヲ得サルトキハ、社員商議ノ上官准ヲ得テ改定スルコトアルヘシ

「芳雲社釀金送附手續書」

- 第一條 凡有志諸君此社ヘ金員ヲ寄附セント欲セバ其額ノ多少ヲ論セス、各位便宜ニ就テ最寄ノ釀金取扱所ニ送附セラルヘシ
- 第二條 釀金取扱所無之土地ハ本社又ハ周旋方ヘ送附セラルヘシ
- 第三條 此釀金ハ一時ニ送附スルモノナレシトモ寄附者ノ望ニ任セ期ヲ定メテ之ヲ數回ニ

送附セラルトモ適宜タルヘシ

「寄附金申込書」

一 金何円

但即時ニ非ナルノ御方ハ其期限ヲ此処ニ記入セラルヘシ

右ハ今般吉野山桜樹栽培及神社仏閣名勝旧蹟永続保存ノ方法企画相成候趣ニ付、  
書面之通資金寄附致度、尤金員ハ御定約ノ第何銀行或ハ周旋方何誰ヘ相送り可申  
候、依テ寄附状如件

年号月日

府県国郡村族藉

何某

大坂府下大和国吉野山

芳雲社御中

第四条 此醸金ノ取扱方ハ東京三井銀行大坂ノ第十三国立銀行及其支店等ナリ

第五条 第一条ノ手續ニ従ヒ有志諸君ヨリ寄附金ヲ送附セラルトキハ醸金取扱所又ハ周  
旋方ヨリ左ノ書式ノ請取証ヲ本人ニ交付シ、其金額姓名等ハ月末ニ至リ芳雲社ニ  
報告シテ定約ニ照シ利附預金トスヘシ

「請取証」

一 金何程

右者吉野山桜樹栽培及祠堂名勝旧蹟保存トシテ、前書之金員御寄附被下正ニ請  
取候、依テ原資ニ加入ヘ永存可仕候也？

年月日

芳雲社

第何銀行又ハ周旋方何ノ誰

何某殿

第六条 第四条ニ掲ルニ銀行ノ外ニ係ル各地ノ支店或ハ周旋方ニ請取タル寄附金ハ一ヶ月  
毎ニ右ニ銀行本店ヘ送付セシメ、本店ニ於テハ其寄附者ノ姓名及金額ヲ芳雲社ニ  
報告シ預リ金トナスコト第五条ノ通りタルヘシ

第七条 芳雲社ニ於テハ右ノ報告ヲ得ル毎ニ之ヲ毎月或ハ隔月ニ一回ツト東京、大阪ノ諸  
新聞ヲ以テ之ヲ広告スヘシ、故ニ此広告中ニ遺漏誤謬アルトキハ速ニ本社ニ向ケ  
推問セラルヘシ

第八条 寄附金数回割納ノ方ヘハ左式ノ仮請取証ヲ交附シ置、皆納ノ節本証書ヲ渡スヘシ

「仮請取証」

一 金幾許 但何回目寄附

右正ニ請取候也

但此仮請取証ハ明治何年何月寄附納済迄ヲ証スルモノニシテ本証ヲ交  
附ノ日ヨリ反古タルヘシ

年月日

芳雲社醵金取扱人何所何ノ誰

何某殿

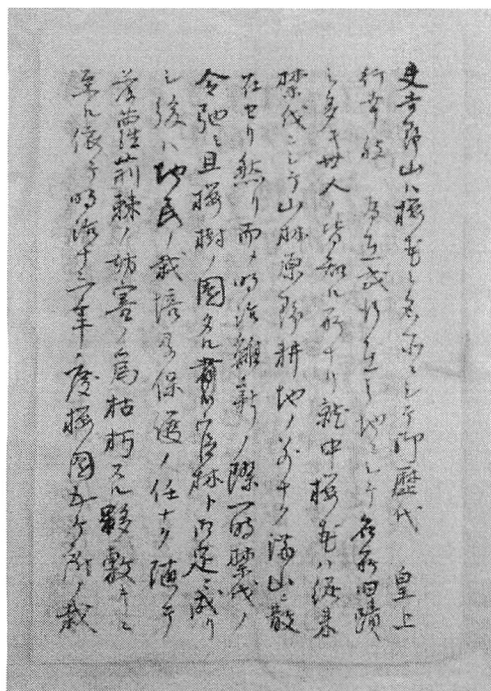
第九条 寄附現金ハ定約ノ銀行及本社周旋方ノ外受取人ヲ派出スルコトナシ

第十条 本社資金寄附ノ諸君登山ノ節ハ本社ヨリ吉野山中名勝旧蹟ヲ案内シ及ヒ延元帝御物其他古器ヲ拝観スルヲ得ヘシ

○下書き？メモ？日時なし

其実ナキニ至ランコト識者ヲ得タサルナリ、豈□□大息ノ至ナラズヤ、山内同志茲ニ視ル所アリ、夙ニ桜樹栽植培養ノ策ヲ講シ、独リ旧規ヲ存スル而已ナラズ、進ンテ好良ノ地ヲ要メ、之レガ区域ヲ拡張シ□ニ繁殖ノ壯觀ヲ致シ、探勝吊？古ノ来賓ヲシテ遺憾ナカラシメント欲ス、然リト雖トモ区々微力同志ノ到底能リ担荷スル所ニアラザルコトヲ奈何センヤ、是ニ於テ朝野貴顕ニ大呼シ博リ高助ヲ仰カント欲ス、冀クハ湖江ノ諸彦微忠ヲ愍シ、拳ヲ被ケ？玉ハンコトヲ功頭謹嚴

○年時の記載はないが大阪府への請願書では（明治14、5年頃？）



夫吉野山ハ桜花之名所ニシテ御歴代皇上行幸被為有？或？行有之地ニシテ、名所旧蹟之多キ世人ノ皆知ル所ナリ、就中桜花ハ從來禁伐ニシテ山林原野耕地ノ別ナク満山ニ散在セリ、然リ而シテ明治維新ノ際一時禁伐ノ令弛ミ、且桜樹ノ園タル官林ト御定ニ成リシ後ハ、地民ノ栽培及保護ノ任ナク随テ□蘿荆棘ノ妨害ノ為枯朽スル夥敷キニ至ル、依テ明治十三年度桜園五ヶ所ノ栽培掃除并枯損木取片付等ノ保護方弊社へ官許ヲ得、其後培養及荆棘ノ刈除スル不怠ト雖モ容易ニ維新以前ノ盛大ナルハ有間敷ト思考スルナリ、元来当山ノ桜樹ハ皇国ノ名所ニシテ一区村邑ニ賞養スルガ如キ僅少ノ類ニ有ラサレハ、願クハ官ノ御助成ヲ蒙リ度、爰ニ維新ノ際当山上地セシ吉野山ノ内字西ノ谷向山ト云松檜木山有之（維新前域内ノ樹木□

半伐採シテ今存スルノ物少シ）別紙絵図面之通ニ有之処、官之御問支無之候得ハ、該官林弊社へ御払下ヲ願度、此故ハ花時大□四月中旬ニ候へ共、前日ノ寒暖ニヨリ十日前後ノ遅速有テ、多年宿志ニテ遠国ヨリ観客ノ登山スルモ花期ニ早ク又ハ後レ失望スル尠シトセス、依テ彼岸桜ト称スル苗又ハ遅桜ヲ培養シ、一ハ観客ノ失望ヲ□イ、一ハ近来枯朽セル若干ノ桜樹ヲ補植セント欲ス希クハ特別ノ御詮議ヲ以、右官有地立木共御撥分ノ上、無代価ニテ弊社へ

御払下被成下候ハ、当山ノ衰頹ヲ補リ海内無比ノ桜樹ノ名所ヲ盛大スルノ一端ト可相成候也

勸第五六三号

別紙之通御指令相成候条、本社へ御通達御取計有之度、且別紙写之如ク照会相成候ニ付、其旨篤ク相心得受書至急差出候様御取計有之度併及通知候也

明治十五年十一月二日

宇智吉野郡役所 印

吉野山戸長役場御中

伺之趣無余儀相聞候ニ付特別之詮議ヲ以テ聞届、枯損木ノ取片付ヲ要スルモノハ無代下渡候條、右取片付員数及植付員数等其時々詳細可届出、就テハ其県官員時々派出シ不都合無之様取締可致事

但人民ニ於テ植付タル樹木ハ悉皆官木タルヘシ、且官ノ都合依リ何時ニテモ手入差止メ其場合ニ於テハ失費等ノ苦情ハ一切採用不致旨受書取置可申事

明治十五年十月十日

農商務卿西郷従道代理

参事院議長山縣有朋 印

○芳雲社有志金出納帳簿 明治 13 年 10 月吉日

(表紙)

明治十三年十月吉日

芳雲社有志金出納帳簿

社中世話懸

(本文)

有志金請方

(金額等省略して名前のみ)

小川円和、宮城晋一、今西宥栄、小野諄三、楠田亀藏、古澤龍敬、古澤龍賢、森下覚太郎、前坊常磐、近藤喜三郎、平井佐一郎、浦壁終□、藤井市治郎、舟知太十郎、山本文蔵、吉川清誉？、大東多十郎、山口謙造、東京深川近藤瓶城、楠田嘉市郎、北東和平、左之三人より墓掃除人足代金被□入、三尾安一郎、決森崎林八、平井新三ヨリ、大橋鏝輔、飯野忠三郎、密井高徧、東藤七五郎、船井愛治？郎、墓掃除出不足工料各々より入(大橋、宮城、山口、小川、浦壁、福角)

十四年二月十五日、佐伯顕悛？、

〳〵四月 阿智賀村山本平□、案内仲間

□〳

金十七円五十銭

三月二日 案内仲間□田外ヨリ冥加金入

一〃三十六円九十銭五厘 十三年ノ通金

✂

金六十一円四十銭〇五厘

内訳

金四十三年八十九銭五厘

差引

金十七円五十一銭 通金

十五年 請方

四月七日

一金七円也 免許案内中ヨリ納金、宮城氏ヨリ入

一〃十七円七十一銭 十四年度ヨリ繰金也

✂廿四円五十一銭五厘

内払

金五円十一銭七厘

引残テ

金十九円三十九銭七厘

十五年十一月

一 金五十銭也 朱矢宅右衛門より右受北東入

是ハ如意輪寺墓桜山之内ナル、シュロ皮当十五年より来十九年迄五ヶ年之間毎年金

五十銭ツヽニテ下行上金也

十六年分

七月分

一 金一銭七厘 字千本官地拝借料前半季分郡役所納

一〃三銭也 右納金入費割□後□

一〃四銭 郵便両度、但□下徳ト大坂トナリ

明治十六年 払方

七月

一 金一銭七厘 官地拝借料一月より六月迄半季郡役所納

〃

一〃三銭 右納入用割合

〃

八月十五日

一〃二円七十五銭 如意輪寺桜山ウルシ下苧十二工半廿二銭ツヽ秀吉へ渡ス

支払口

十三年

- 一 金一円 紀州津田正臣如意輪寺へ碑銘建築ニ付、当社分碑銘一石代、周旋□□  
并ニ運送人足六工料共
- 一 同一円九十八銭 右□石運人足六名工料、一工ニ付三十三銭ツヽ、右之口共口  
氏ヨリ先方へ渡ス

十一月十四日

- 一 同五十銭 芳雲社之印一果代、五条へ払

十一月十日分

- 一 同五円九十二銭七厘 実城寺廃疏、一山中ヨリ寄附之節諸入用、村総代大東□□渡ス

十二月廿四日

- 一 同九円 ウルシ苗千五百本楠田倉蔵へ渡ス、一本ニ付六厘ツヽ

〃

- 一 〃三円五十銭 右ウルシ苗植付工料、合十四工、一工ニ付廿十銭ツヽ

十二月廿四日

- 一 同六円廿四銭 如意輪寺墓、桜山掃除人足差図旁□工料廿七工、廿二銭ツヽ北東へ渡  
ス

決 十一工半北東

十工半八木也

三工角安

〳廿七工也

- 一 同五十五銭 醵金簿二冊代大坂払、宮城氏へ渡ス
- 一 同三十六銭 美濃紙二状代、入社簿醵金簿用  
同断
- 一 同二十二銭 醵金簿二、東京行便税同人渡ス
- 一 同六銭 案内願之義ニ付役場ヨリ達書賃  
〳二十九円三十四銭七厘

十四年

一月十八日

- 一 同七十五銭 長峯桜蔓切掃除三工丈六人ニ渡ス

一月廿六日

- 一 同七十七銭 右同断森崎林八へ渡ス、三工

十六年分

七月分

- 一 金一銭七厘 字千本官地拝借料前半季分郡役所納



同

一 〃三錢也 右納金入費割□□

一 〃四錢 郵便兩度賃下□ト大坂トナリ

明治十六年

払方

七月

一 金一錢七厘 官地拝借料一月より六月迄半季郡役所納

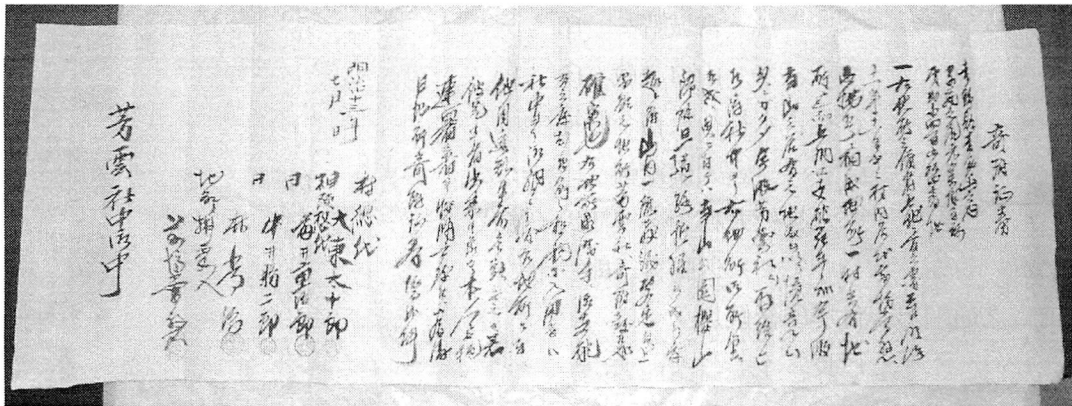
〃

一 〃三錢 右納入用割合

八月十五日

一 二円七十五錢 如意輪寺、桜山、ウルシ下苧十二工半廿二錢ツゝ秀吉へ渡ス

○寄附証券



・明治 13 年 7 月

寄附証券

吉野郡吉野山之内字西之尾元実城寺跡第二千四百九十四番地

一 右之地所之儀者上地ニ有之候ニ付去ル明治十一年十一月申ニ、村内名代前坊常磐御払下ケ候ニ相成、地所ハ一村共有地所ニシ而上納江支配罷在候処へ、今般当山之谷？有之地域ヲ以テ境？意？山□ンガタメ今般芳雲社ヲ取結ヒ候ニ附、社中ヨリ右地所所望ニ相成リ候ニ付テハ当山公園桜山掃除且道路修繕被成下度趣ニ附、山内一統□議決定候上要□之地所芳雲社へ寄附致候処確實也、右地所御勝手ニ御支配有之度、尤地所之租税等不用等ハ社中ヨリ御納被下度、右地所ニ□他目途□□無之候、若彼是申者申□□本会不拘連署之者ヨリ□明可致候ハ為□日地所寄附証券依而如件

明治十三年七月 日

村総代	大東太十郎	印
組員惣代	藤井重治郎	印
同	中井勝二郎	印

同 林光治 印  
地所弘受人 前坊常磐 印

芳雲社中御中

・明治13年11月21日

御願書

- 一 桜樹保存及名所旧跡等維持保護ノ目的ヲ以本年三月中同志結社之義上願仕御允可ヲ蒙リ罷在候処、追々入社人モ有之、随テ事務取扱所無之候ラハ不都合ニ付、今般協儀之上当山吉水神社社務所ヲ以当分芳雲社仮事務所ト仕度候条、御許要被成下度此段連署ヲ以奉願上候也

明治十三年十一月廿一日

大和国吉野郡吉野山

芳雲社総代

宮城晋一 印

山口謙蔵 印

村社吉水神社兼務金峰神社祠掌

大橋鏝輔 印

吉水神社兼務金峯神社氏子総代

近藤喜三郎 印

前書之通願出ニ付奥印仕候也

戸長

前坊常磐

堺県令税所篤殿

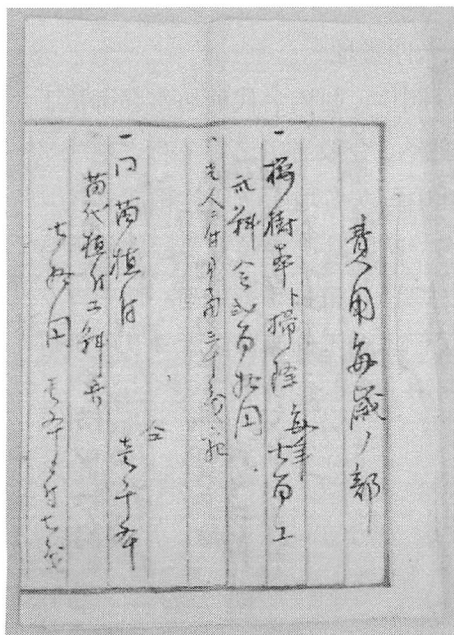
書面之趣聞届候事

明治十三年十二月三日 印

○費用毎歳ノ部（桜樹の保護植栽計画であろう）

費用毎歳ノ部

- 一 桜樹本ト掃除毎年七百工  
二 料金二百十円  
一人ニ付日当三十銭宛
- 一 同苗植付 全千本  
苗代植付工料共  
七十円 一人口丁ニ付七銭
- 一 監守人 年給二十円  
一人ニ付十円ツ

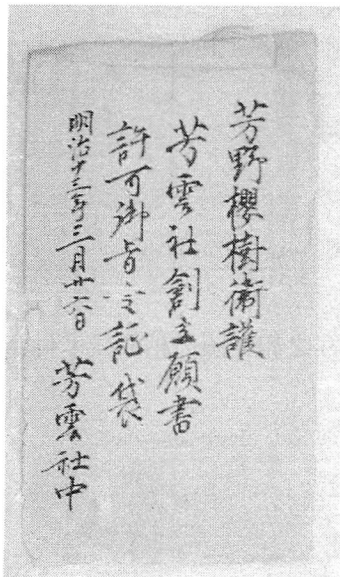


- 一 民有地ニ所在之補助金 四十五円  
但二百本ト見込一本一ヶ年ニ付十五  
錢宛
  - 一 桜花肥し法方 五十円  
但一カ年分
  - 一 勝景ノ地ニ列亭設置 四ヶ所  
但千本、吉水、如意輪、竹林、西行  
此修繕 十五円一ヶ年分
  - 一 入□釀金百□□ノ諸□桜花  
遊覧之節名所古跡案内及延元帝御物其他古器披露ス  
此手数料 十円
  - 一 三十円  
但筆紙郵便其他諸雜費
- 合計 金四百五十円  
此資本金六千四百廿六円  
但一ヶ年金千円ニ付利子七十円

一時費用ノ部

- 一 新規設置之亭 四個  
此費用 百六十円  
一個ニ付四十円宛
  - 一 古来桜園及名所古跡等数所多年ヲ経ル有税地ニ変換セシヲ、更ニ買戻ス概略見込  
金三百円
- 合計四百六十円

資本合計 六千八百八十六円



○袋、中は何も入っていなかった。(桜樹の植栽などの書類が入っていた者らしい)

芳野桜樹衛護

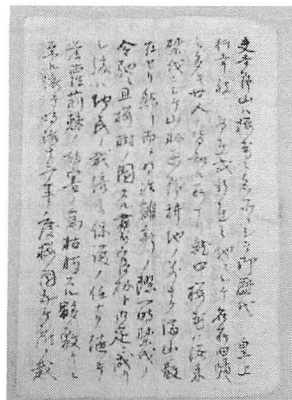
芳雲社創立願書

許可御旨令証袋

明治十三年廿六日

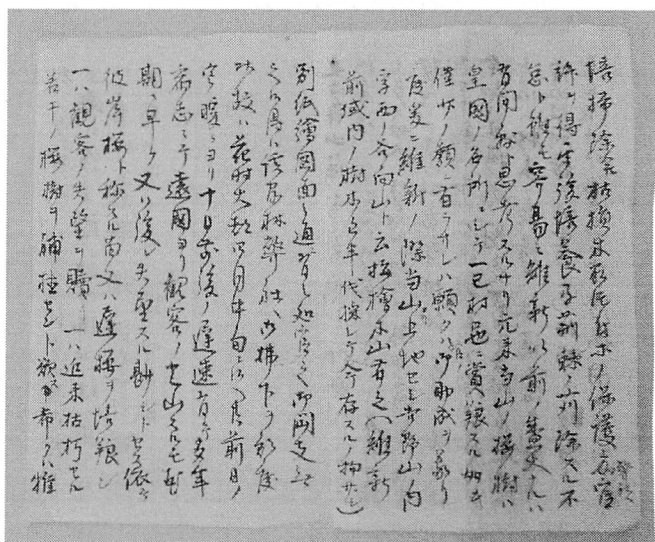
芳雲社中

夫吉野山ハ桜花之名所ニシテ御歴代皇上行幸被為在、或行在之地ニシテ名所旧蹟之多キ世人ノ皆知ル所ナリ、就中桜花ハ從來禁伐ニシテ山林原野耕地ノ別ナク満山ニ散在セリ、然リ而メ明治維新ノ際一時禁伐ノ令弛ミ、且桜樹ノ園タル官林ト御定ニ成リシ後ハ地民ノ栽培及保護ノ任ナク、随テ落籬荆棘ノ妨害ノ為枯朽スル夥敷キニ至ル、依テ明治十三年度桜園五ヶ所ノ栽



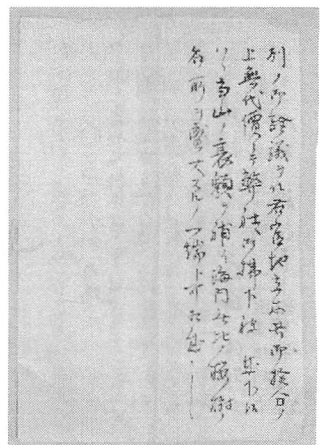
培掃除并枯損木取片付等ノ保護方弊社へ官許ヲ得、其後培養及荆棘ノ薙除スル不怠ト雖モ容易ニ維新以前ノ盛大ナルハ有間敷ト思考スルナリ、元来当山ノ桜樹ハ皇国ノ名所ニシテ一己村邑ニ賞養スル如キ僅少ノ類ニ有ラサレハ、願クハ官

ノ御助成ヲ蒙リ度爰ニ維新ノ際当山ヨリ上地セシ吉野山ノ内字西ノ谷向山ト云松檜木山有之（維新前域内ノ樹木有半伐採シテ今存スルノ物少シ）別紙絵図面之通ニ有之处、官之御問支無之候得ハ該官林弊社へ御払下ヲ願度、此故ハ花時大□四月中旬ニ候へ共、前日ノ寒暖ニヨリ十日前後ノ遅速有テ多年宿志ニテ遠國ヨリ観客ノ登山スルモ、花期ニ早く、又ハ後レ失望スル



尠シトセス、依テ彼岸桜ト称スル苗又ハ遅桜ヲ培養シ、一ハ観客ノ失望ヲ贖リ、一ハ近来枯朽セル若干ノ桜樹ヲ補植セント欲ス、特

別ノ御詮議ヲ以右官地立木共御検分ノ上、無代価ニテ弊社へ御払下被成下候ハト当山ノ衰頹ヲ補イ、海内無比ノ桜樹ノ名所ヲ盛大スルノ一端ト可相成之候也



○勸第五六三号（明治15年11月2日（奈良県庁文書に残っていないか？）

別紙之通御指令相成候条、本社へ御通達、御取計有之度、且別紙写之如ク照会相成候ニ付、其旨篤ク相心得□付□至急差出候様御取計有之度併通知候也

明治十五年十一月二日

宇智吉野郡役所 印

吉野山戸長役場御中

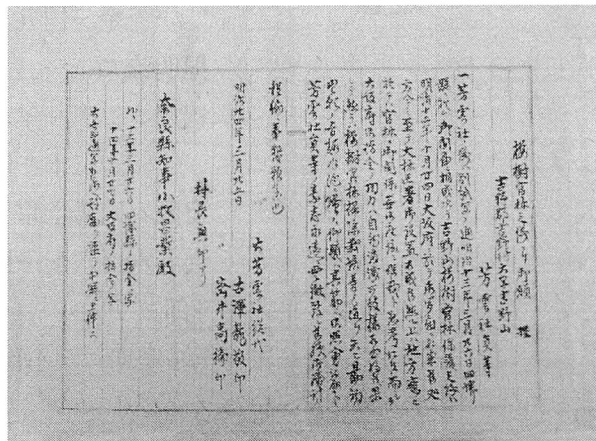
・明治 24 年 3 月 25 日

桜樹官林之儀ニ付御願 (控とある)

吉野郡吉野村大字吉野山

芳雲社員等

一 芳雲社ノ儀ハ別紙写ノ通明治十三年三月廿六日旧堺県ニ於テ御聞届ニ相成、次テ吉野山桜樹官林保護之儀ハ明治十五年十月廿四日大坂府ニ於テ御聞届ニ相成候処、方今ニ至テ大林区署設置相成候、然ル上ハ地方庁ニ於テハ官林ニ御関係無御座儀ニ候哉ト熟考仕候、而シテ大坂府御指令ノ功力ハ自然消滅可致様相□得候□して然ラハ桜樹官林掃除栽培等ノ道ヲ失ヒ最初出願ノ旨趣水泡ニ帰ス、抑願へ其筋へ御照会被成下芳雲社員等ノ素志永遠ニ貫徹致シ候□御勝計ノ□偏ニ奉懇願候也



明治廿四年三月廿五日

右芳雲社総代

古澤龍敬 印

密井高徧 印

村長奥印アリ

奈良県知事小牧昌業殿

外二十三年三月廿六日 旧堺県ノ指令ノ写

十四年十月二十四日 大坂府ノ指令ノ写

右各二通写相添へ郡庁ヲ経テ本庁ニ上伸ス

○芳雲社の出納簿 (明治 15 ねんから明治 24 年迄の出納簿)

(表紙)

従明治十五年五月至二十四年四月

芳雲社出納決算簿

山口謙蔵係

(本文)

受入金

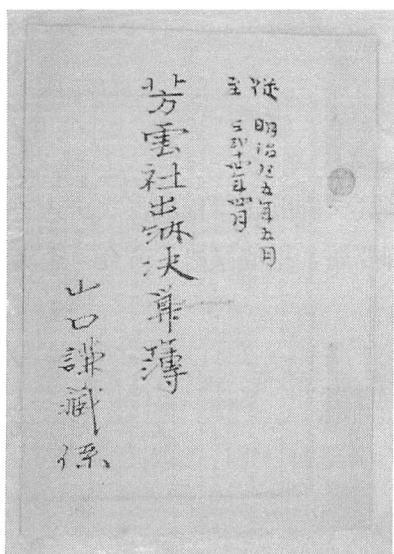
明治十五年五月

一 金十九円三十九銭五厘

但前役古沢□□ヨリ引継金

明治十六年八月十五日

一 金七円也



小野諄三氏取次

但本年度案内中ヨリ冥加金トシテ入ル

全九月三十日

一 金五円也 四人 取次

但前年案内仲間へ十五円貸金ノ処へ入ル

”

一 金一円五十銭 北東和平ヨリ入

但明治二十一、二十二、二十三、三ヶ年分如意輪寺道傍棕  
栂皮ニシテ一年ニ付五十銭トシ廿一年ヨリ十ヶ年四人支金

一 金三十三円〇五銭 宮城氏取次

但是ハ同氏上京ノ為桜井□監氏外数十名ヨリ一本五銭トシ  
合計六百六十一株寄附代金也

一 金十一円五十銭 平井才一郎ヨリ入ル

但十八年度□廿一年ニ至ル全期ニテ小作麦及大豆合計（麦二十五斗、大豆一石）麦  
三円大豆四円トシ起算ス

廿年九月貸ヨリ廿三年九迄ハ廿三年十月ニカ入 増口村

一 金十六円六十二銭 椿井吉郎平ヨリ入

但四十円同人ニ貸付ノ利子ニ入

明治廿一年七月一日

一 金五銭 古澤氏ヨリ入

但栄山寺有志金ノ剩金

廿三年四月廿七日

一 金二円六十銭 御氏取次入

但行啓□奉陸軍二人石原弘吉并池原熙中□鮫嶋重雄外に近藤監□□桜苗有志金  
（芳雲社掛必用書類参照。昭憲皇后行幸の時）

一 金六円五十銭 山本万吉郎□入ル

但如意輪寺墓地漆代金

合計金壹百二十二円五十三銭五厘

内

金十五円八十二銭 小野諄蔵引込金

内訳

（小野諄三からの明細が張り込まれている）

記

一 五円三十二銭

案内貸金之内十六年九月三十日ヨリ預リ、但シ元金五円也三十二銭利子也

一 七円也

上金分、十六年九月より預リ

一 三円五十銭

上金分、十八年八月より預リ

〆十五円八十二銭

右之通り預リ有之候也

十月三十日

小野諄三

古澤龍敬様

十九年改十一月三日天長節ナリ

支払方

明治十九年一月二十九日

一 金四円四十銭三厘 大橋氏渡

但西行谷桜植付金六十九工部□□合計工料米六斗五升二十余石ニ付六円二十銭神社  
ヨリ取□

明治十九年八月廿三日

一 金一円十銭二厘 村役場渡

但実城寺跡十八年六月ヨリ十九年一月ニ至ル村□割

〃五月十八日

一 金四円八十七銭六厘 前坊氏へ渡

〃十月十八日

一 金七十二銭 前坊渡

但如意輪寺道桜植五工同人取扱分札渡

〃十二月一日

一 金一円二十銭 岩崎栄治?郎渡

但桜苗存志帳仕立代

〃十五日

一 金一円二十銭 東藤七五郎渡

但桜葛切并苗掃除賃工料

明治二十年四月三日

一 金一円十五銭 朝日新聞渡

但開花期日広告料

〃

一 金八銭也 〃上

但同伴ニ付郵□

〃八月十五日

- 一 金六十錢 東藤七五郎渡  
但如意輪寺漆山下苧

〃九月二十五日

- 一 金二円六十五錢 神社渡  
但西行庵桜山下苧廿六工半一□□□神社取扱ノ処へ相渡

廿一年四月十日

- 一 金一円也 □新聞社渡  
但桜花開期広告料

廿年十一月

- 一 金五円也 宮城氏渡  
但同氏上京ノ節桜樹□□□賃相渡

明治二十一年四月二十九日

- 一 金十二錢 □川嘉十郎渡  
但漆株切并掃除賃

〃二月十一日

- 一 金六錢五厘 横井庄三郎渡  
但千珠院□枯桜取片付日当半工

〃七月十一日

- 一 金二円六十錢 同人外二人渡  
但一ノ阪□手掛上ノ千本桜山下苧及葛切二十工代

二十一年七月二十七日

- 一 金六錢五厘 □嶋□七渡  
但□□掃除半工代

〃八月一日

- 一 金十三錢 横井庄三郎渡  
但上千本大風ニ付花□付一工代

〃十四日

- 一 金八十錢 田中仙太郎  
但如意輪寺漆山下苧賃

〃

- 一 金十三錢 中川久吉? 渡  
但関屋桜倒レニ付片付一工

〃九月十五日

- 一 金五十九錢六厘 役場納メ  
但二十一年度畑租二期分



〓十月四日

- 一 九十九錢 岩崎栄次？郎渡  
但西行庵桜山下ヨリ九工

〓

- 一 金二十錢也 同人へ  
但□印坊跡掃除賃

〓十五日

- 一 金二十錢 上市通運 北村宗三郎渡  
但印刷□□稲生へ通送賃

〓十八日

- 一 金十八錢九厘 役場納メ  
但地方税并ニ村□割

〓二十八日

- 一 金十錢 岩田伊三次  
但□印坊跡竹垣用棕梠縄代

〓四月八日

- 一 金一錢 朝日新聞社行  
但郵券

明治二十二年一月廿日

- 一 金六十五錢 宮城氏渡  
但桜苗有志帳十冊代

〓二十六日

- 一 金七十一錢五厘 辻村三重郎渡  
但□印坊跡掃除有志人へ中食一斗三升五合代

〓

- 一 金十錢 林政吉渡  
但同大豆□□四丁空地

二十二年四月二十日

- 一 金十一錢五厘 役場納メ  
但本一年□地方税

〓

- 一 金二錢五厘 同上  
但公□金

九月二十二日

- 一 金三円二十錢 奥田吉三郎渡  
但漆山下苧

〃二十四日 大橋渡

但西行庵下苧各一工半代

二十三年三月十五日

一 金七厘 役場納メ

但二十三年度地価割

〃四月九日

一 金七十五錢也 田中仙太郎外二人

但大峰道筋桜苗百七十本間植五工代

〃十一日

一 金七十五錢 吉川已三吉外二人

但□□坊跡掃除五工代

(二ページ写真抜け)

但地方税

〃八月十三日

一 金六十錢 車谷音松渡

但如意輪寺漆山下苧

〃八月二十二日

一 金一円十三錢 神社渡

但西行庵桜下苧九工代

〃九月五日

一 金十四錢 □谷□吉渡

但西行庵桜苗片付代

〃十月十八日

一 金五十八錢也 尾崎芳太郎へ渡

但如意輪寺桜山葛切四工半

二十四年四月二十五日

一 金十六錢六厘 役場納メ

但芳雲社前坊記名地価割

二十年寺貸付

一 金四十円也 椿井吉郎平渡

以上合計

金九十五円五十七錢六厘也

明治二十六年一月十日於古澤氏邸宅

決算立合人

古澤龍敬 印  
山口謙蔵亡跡  
全虎三郎 印  
福住縫

○北東和平の請負書（明治 21 年 2 月）

（袋紙）

芳雲社御中

棕栲皮剥受負人 北東和平 請書

（本文）

一 当山芳雲社御支配ナル如意輪寺境内全寺へノ道路ヨリ東ノ手墓地并畔岸等ニ有之棕栲皮剥致之儀、明治二十一年度ヨリ向フ十ヶ年年間拙者へ御委任相成候ニ付テハ、一ヶ年税金トシテ金五十錢宛毎年五月中ニ無遅滞相納可申候段、又道路替等有之時棕栲之株減シ候節□□割合ヲ以税金御減シ相成ベク筈也、決而至当之減シ方申間敷候、尚又年々税金延滞候ハ、何時差戻し之儀被仰聞候共□□違背致間候為其受負書差入申処如件候

明治廿一年二月 日

棕栲皮剥受負人

北東和平 印

芳雲社御中

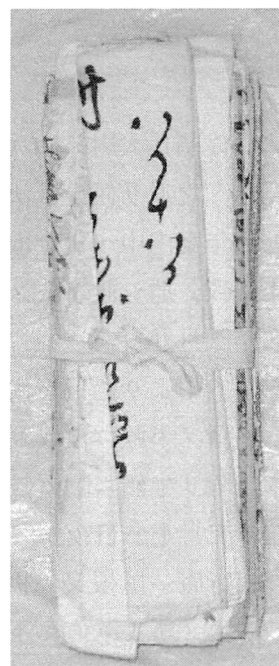
○芳雲社の資料を結束したもの、右図面参照

芳雲社掛必用書類

椿井証文壱通

小野諄三ヨリ預書 外ニ要用 記之

\*と朱書があり一連の書類が紙縫りで綴じられているが、いろいろな内容が含まれている。芳雲社の仕事に対する出金を纏めてある。重要な領収書類である。しかし年月未記載の領収書も多く不明な点が多い。以下具体的な領収を記載する。このまきものを調査する必要がある。



○

右ハ廿四年三月十七日

吉水神社仮事務所ニ於テ協議ニ決ス

前坊常磐、古沢龍敬、密井高倫、平井奈良吉、大橋鏝輔ニ付不□不未山本修理宮城晋一他行不在ニ付不参候也

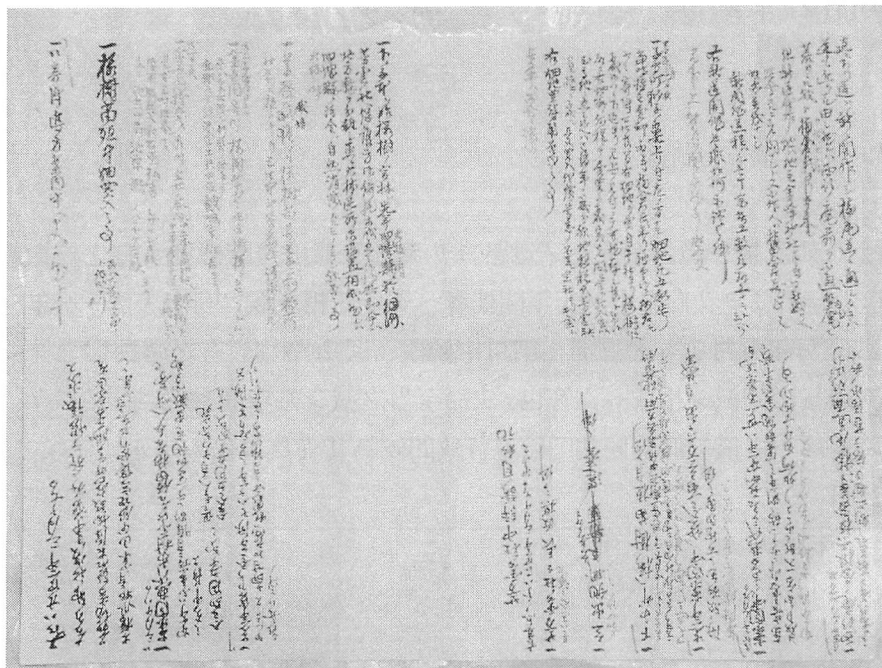
〃三月十八日

一 案内惣代木村奈良吉、飯田楠吉兩人呼寄也

本年ハ不参詣ニ付特別ニテ冥加納金シ金額聞届シテ之旨申渡ス

〃日

一 先年貸下ケ金年済七八ヶ年之間無ク弁済方申渡、又当時加藤ハ犯罪中ニ付満山口道延引ヲ願居候事



芳雲社中評議ノ目私記

右朱点ノ分ハ廿四年三月十七日決ス

一 芳雲社々長改撰之件

是ハ区会ニ譲ル

一 全出納掛欠員ニ付選挙ノ件

前同続ナリ

一 下千本へ桜樹苗植付之件

并〇ル廿三年四月廿二日供達、近衛兵

中佐騎兵大尉ハ砲兵中尉方ヨリ吉水神社内及蔵王堂境内へ桜苗植付寄附之事也

見込ミ之通り候事ニ決ス

一 先年案内中へ貸金取立方六ヶ敷ニ付、幾年済ニ敷取置之可然哉否之件

年済致シ遺シ候事決ス

廿四年三月九日

一 案内中より過日惣代三名罷遣、本年ハ世上不景況ニ付参客意外ニ少ナシ、故ニ例年之冥加金ヲ半減ニ被成下度旨一入願ヒ出タリ、如何取計可然哉事

本年限り半額ニ聞置候事ニ決ス

廿四年三月十一日夜

一 西行庵ノ屋根又ハ板敷等榎尾道通行ノ山行之者共等取荒シ制止シ難カラシカ、依テ苔清水ノ所より直ニ下リ道ヲ新ニ開作シ榎尾道ニ通シタランハ道モ近クナル由シ、然レハ西行庵前ヲ不通故自然庵モ荒サトル歟ト申談セラル

但新道開作ノ地ハ地主金峰神社ナルニ付、同社掛リへ照会スルニ差問ナシト、又小作人ハ楠田倉蔵氏也、此亦異儀ナシ、新開作道程ハ凡一丁余、此工数凡十エナラント云へリ

右新道開作〇ニ非如何示談之件

見分之上新道ヲ開キ可然事ニ決ス

廿四年三月十一日夜

- 一 子守町獅子ノ畠上り付左ノ方ナル畑地凡五畝歩、当時持主売却ノ由ニ付楠倉氏来リ被申候ニハ、拙者も少々寄附可仕候間、右畑地ヲ買付貴社ヨリ桜樹ウヘ付相成候ハ、下辺ヨリ見上ケ見付ニテ可然存シ候ト被申候、故ニ右地所何程ニテ売買可相成候哉、先問ヒ合ヲ□入置候、尤高地ニ有之候ヘハ已後年々幾分敷地租税芳雲社ニ負担ニ相成ル且又買入代価等志ノ不足ハ全社ヨリ遣金ス

右畑地買得用否哉之事

此条ハ区会ニ譲ル

- 一 下ノ千本ヲ始桜樹ノ官林ハ先年大坂府ニ於伺済、芳雲社へ保護方御寄托相成有之候得共、即今ハ地方庁ヲ分離シ更ニ大林区所御設置相成、然レハ大坂府ノ指令ハ自然消滅スルモノナラン歟否之事

栽培

- 一 □□栽培アル桜樹苗、蔵王堂前、稻荷社前ニ植タキニ付三四計谷畠氏請求セラル

廿三年四月廿二日

- 一 金一円寄附桜樹二十本、但近衛桜ト名ツクト云ヘリ、是ハ皇后陛下行啓ノ供奉ニテ近衛参謀陸軍工兵中佐鮫嶋重雄君ヨリ

廿一日夜

- 一 金一円十五銭寄附、全廿三本、内十二本吉水神社へ、十一本蔵王堂辺へ、但シ供奉桜ト名称ヲ乞ヘリ、

是ハ右全時供奉ナル 陸軍騎兵大尉石原弘吉シガケン士族

全砲兵中尉池原熙イバラケン士族（この二名）ヨリ

- 一 桜樹苗殖付畑買入之事、所ハ大橋ナル山田ノ小作地ナリ
- 一 ッ寄附進メ案内中へ申入可然トノコト

\*この紙片は二つ折りになっており明治24年の年号が知られる。

○芳雲社の出費関係（「(包紙上書) 芳雲社掛 請取書在中」として一括されたもの)

- ・シュロ皮剥ぎの小作請負証券

小作請負証券

小字如意輪寺墓地ニ有之

- 一 棕櫚皮剥取之事

右小作一ヶ年毎ニ金五十銭ツ、該皮取前ニ相納メ可申筈ニテ、本年ヨリ来ル十九年迄五ヶ年ノ間私共エ小作為致被下候条相違無之候、然ル上ハ年季中右シュロ木枯損セサル様皮剥取可致ハ勿論、若不都合之所業ト有之候節ハ年季中タリ共御取上相成候共一言苦情

申上間敷候、依テ小作年季預リ請書証券如件

明治十五年九月 日

吉野山皮小作主

朱矢宅三郎 印

全山保証人

北東和平 印

芳雲社中総代

古澤龍敬殿

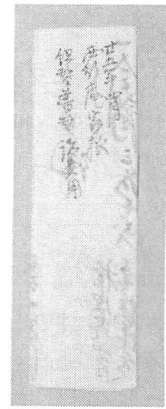
○西行庵の屋根の葺き替え

廿五年四月

西行庵屋根

組替葺替諸費用

\*明治 25 年 4 月よりの西行庵の屋根を修理した費用をまとめたもの  
芳雲社は西行庵の管理も行ってた。



記

- 一 金二円三十一銭                      檜皮四十二間  
        子守松本梅吉へ払
- 一 〃二十六銭                            屋根□  
        六百五十間?
- 一 〃二十一銭                            中□□  
        四百三十□
- 一 〃三十四銭                            家押へ  
        二荷代
- 一 〃廿六銭                                母? □四丁  
        板四歩    雇?代
- 一 〃一円廿銭                            家根下地組替  
        同葺手間代
- 一 〃廿四銭                                道路修繕  
        一工半

〆 金四円八十三銭也

右ハ西行庵修繕入費正ニ受取申候也

廿四年四月十三日

東留吉 印

芳雲社御掛 古澤様

\*前記関連であろうか

一 椀皮 四口 二百也  
代金二円三十一銭正ニ受取申候  
四月十四日

子守松本講吉

古澤様

左は上記の明治 24 年 4 月 13 日に芳雲社へ収金をした領収証であるが東留吉に関しては今後の課題である。

西行庵の修理には約 5 円ほどの費用を要している。西行庵の修理に関しては芳雲社の明治 24 年 3 月 11 日の協議の報告がある。

・廿四年三月十一日

一 西行庵ノ屋根又ハ板敷等槇尾道通行ノ山行之者共等取荒シ制止シ難カラシカ、依テ苔清水ノ所より直ニ下リ道ヲ新ニ開作シ槇尾道ニ通シタランハ道モ近クナル由シ、然レハ西行庵前ヲ不通故自然庵モ荒サレル歟ト申談セラル

但新道開作ノ地ハ地主金峰神社ナルニ付、同社掛リへ照会スルニ差問ナシト、又小作人ハ楠田倉蔵氏也、此亦異儀ナシ

新開地道程ハ凡一丁余、此工数凡十工ナラント云ヘリ

右新道開作ニ非如何示談之件

見分之上新道ヲ開キ可然事ニ決ス

・ 記

一 一円十三銭一厘 竹林院

一 一円四十九銭五厘 古澤

一 八十八銭九厘 上古澤

ノ三円五十一銭五厘

内

二十銭 上古澤

六銭 同上

三銭 竹林院

差行

三円三銭五厘

一 六十八銭九厘 上古澤へ

- 一 一円十銭一厘 竹林院へ
- 一 一円二十四銭五厘 古沢へ

・ 証

- 一 金十銭也

右を芳雲社用□□御□代正ニ受取申候也

廿四年十月二日

楠田良三 印

古澤様

\* 内容不明

・ 證

- 一 金七十五銭也

但芳雲社掛り西行谷桜山及正面堂跡桜山下刈工料、割合五工代

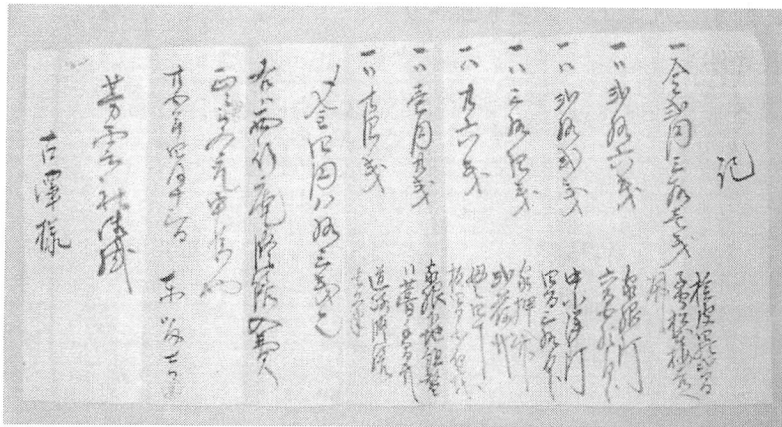
右正ニ請取候也

明治廿四年十一月十一日

金峰神社社務所 印

古澤龍敬殿

\* 下図 p38 頁図、



次貢領収証は五條区裁判所からのもので手数料、立換旅費とある。芳雲社にとって裁判とは何をさすのであろうか。

以下の五條区裁判所への旅費等の紙片がある

証

- 一金七円也

右ハ芳雲社代理トシテ政府江調ノ件ニ付旅費日等正ニ請取候也

明治十四年七月五日

□□露杉 印

古沢様



\*「政府へ調」とある。事柄不明。

○裁判所からの領収書



受 二三四号  
 同 三九号  
 一金五十五錢  
 内訳  
 金十錢 手数料  
 金四十五錢 立替旅費  
 右領収候也  
 明治廿六年一月十三日  
 五條区裁判所  
 執達吏森八界  
 古澤龍敬代人  
 北東和平殿

\* 裁判所の領収書から見ると芳雲社はお金を貸していた様子。芳雲社の資料にはたくさんの切れ端状の領収書がみられるが未調査である。

帳簿記載右之表

□金百五十円 十三年九月貸付  
 百六十円 十四年方元利ノ金入  
 〆四百九円二十八錢也 十六年十二月利子入  
 差□九十五円ト成  
 明治十六年十二月□  
 此ノ  
 金九十円四十錢

\* 三月十二日迄 (日付が巳とあるから明治 22 年か、不読文字多いので詳細不明)

旧巳月 四月廿五日

- 一 二工
- 一 五錢

但一円五十錢預ケ之内五十五錢達吏へ相納メ、残り九十五錢受取所へ五錢差上、金一円受取□

増口村(現大淀町増口)岡吉□候ニ付五條裁判所□口出張之コト、保証金下ケ渡?候ニ付、九十五錢受取五錢差上一円受取候事

- 一 三十四錢五厘

右□工難用？  
巳九日まゝ？

北東和平

芳雲社御掛 古沢様

\*五條区裁判所は現在の五條市新町にある五條簡易裁判所の前身か。芳雲社は余剰金を村人へ貸付を行っていた様子 P41 参照。

・ 証  
一 金三十銭

右者増口村椿井□□□□料トシテ正ニ申受候也

廿五年十月廿五日

森山房三郎

芳雲社御掛リ

古澤様

・ 記  
四月八日より十四迄ニ而

一 四工半

登記所送り判令□□□□参ルコト、但シ山内中へ  
巳九月日

北東和平

区長古澤様

・ (封筒)

吉野山 案内御中

取締役 杉本勝治郎

(手紙本文)

去ル廿五年度分芳雲社へ納金今ニ延引被致如何之事ニ候哉、是非共両三日之内急度取纏メ  
納金致事

明治廿六年三月十三日

芳雲社

仮社長古澤龍敬 印

一 金二円也

同年三月廿一日納

案内御中

一 金七十円也

但椿井吉郎平借入金御勘弁ニ付元利共前記ノ通り相済? 候也

外ニ金二円

但五条役口裁判処へ訴訟セシ入費ノ内前記ノ通ニテ相渡候也

計金七十二円

右相渡候也

明治廿六年三月十日

内田七郎 印

米田六太郎 印

古澤龍敬殿

此間御願申置候処、□□甚手元不都合ニ付、誠ニ申兼候得共此□へ御渡レ□□古澤ニ付候也

・ 関屋桜のこと

一寸御□申上歟、然者セキヤ朽桜寸附賃十三錢此者江御渡被下度御依頼申上候□□以上

吉野山中ノ井谷 中川久七より

山口様

・

証

一 金三十錢也

右ハ芳雲社シュロヲ縄代ニ受取申候

廿一年十月廿八日

岩田伊三次 印

・

明治廿一年後 第二期畑粗

一 金五十九錢六厘

右正ニ領収候也

明治廿一年九月十五日

吉野山戸長前坊常磐

古沢龍敬殿

・

明治廿一年度後半期分地方税中地租割

一 金十一錢

右正ニ領収候也

明治廿一年十月十八日

吉野山戸長前坊常磐

大橋謙蔵殿

・ 覚

十月十四日

一 二厘

廿五日

一 二厘

〆四厘 □代

第十三年

吉野山? 林政吉

山口様

・ 記

一 金九円也

右花株大苗千五百本代金正ニ受取申候也

第十三年十二月廿六日 (注明治? 以下同)

楠田倉造 印

芳雲者御中

・

工料勤定

一 十一工半 北東和平 人足廻シ□働

一 十工半 八木や □□分□同断

一 三工 南谷四郎

〆廿五工 但し一工ニ付廿五銭ツゞ

此賃六円廿五銭

ウルシ苗植付工料

一 三工 坂口秀吉

一 二工 松本辰造

一 三工 森□林八

一 三工 広□□平

一 三工北東和平

〆十四工此ちん三円五十銭 但し一工二十五銭ツゞ

二口ル

九円七十五錢

右者日口口賃御下渡候ニ付正ニ請取申候以上

第十三年十二月廿五日

同口口人

惣代口

北東和平

芳雲者御中

古沢龍敬様

證

一 金五円也

右者桜樹寄進周旋ニ付東京ニテノ諸入費金正ニ落手仕候也

十九年一月廿一日

宮城晋一

芳雲社出納方

山口謙蔵殿

記

一 金二円六十五錢

右ハ西行谷桜山下苜廿六工半工料口金取替正ニ請取候也

明治廿年八月

金峰神社社務所

芳雲社御中

證

一 金二円四十五錢

右ハ吉水神社へ御奉納図旗代正ニ受取候也

明治廿年五月十四日

宮城晋一

芳雲社御中

・  
上千本桜上（植えか？）  
惣〆  
一 五百三十五本  
四円八十一銭五厘  
□□三月廿六日  
山口様  
□川嘉十郎  
横井庄三郎

・  
証  
一 檜 三百本  
代三十銭  
一 杉 十五本  
代七二銭三厘  
一 右植込 二工料二十四銭  
金一五十五銭三厘  
右正ニ受取候也  
廿年三月三十一日  
横井庄三郎  
芳雲社出納掛

・  
証  
一

・  
一八十銭也  
右正ニ領収申候也  
堺谷虎吉  
ほうんしゃ様

・  
廿三日  
一 一工 檜うへ

檜苗百三十本  
同日、四日、五日  
一 五工 桜うへ  
子四日

横井庄三郎

山口様

芳雲社はサクラの補植などを行った。

証

一 金廿二銭五厘 学校屋敷口掛課  
一 工半右正ニ請取候也  
四月三十日

御所辰三

上様

・(台紙は印刷物)

明治廿一年度第三期分村費芳雲社  
一 金七銭三厘 山口受  
十月十八日収入  
右廿一年十月十日限当役場へ可相納事  
但上納口都度必ス此切符持参スヘシ  
明治廿一年十月一日  
吉野山戸長役場 印

記

一 建札古板削リ五枚 是二本  
一 〃新調五枚 是六本  
右仕立二工半  
代五十銭  
外ニ計二銭 大工兵太郎へ  
右御例可被下候也  
廿一年四月九日

古澤

芳雲社出納掛  
山口殿

証

一 金二十錢也

右ハ飯野喜次郎氏へ桜樹保存製札認メ辛口料として筆求遣ス料

一 〃十錢也

右ハ桜樹製札取寄建換一工料古沢へ  
前書之通正ニ受取候也

廿一年六十七日

古澤龍敬

芳雲社出納方  
山口謙藏殿

記

一 金九十九錢也

右ハ西行谷桜山下荊九工代岩嶋栄次郎ニ於テ取替払至？之間御渡し被下到候也  
明治廿一年八月三十一日

大橋鏝輔

芳雲社会計方  
山口謙藏殿

証

一 金一円五十錢也

右者栄山寺鎌足公御遠忌為メ奉納□□下正ニ□□致候也

廿一年三月三十一日

大中源三

芳山古澤殿

・(印刷物)

證

一 金一円也

罪紙□□十冊代



右正ニ受取候也

明治九年十二月十二日

大阪心齋橋筋大宝寺町東エ入

大阪出版会社

山口様

(罪紙云々とは何を指す?)

・

証

右ハ芳雲社寄進帳十冊代? 大阪□□へ払金正ニ受取申上候也

廿二年一月七日

宮城晋一

芳雲社御中

・

證

一 金一円四十九錢五厘

右ハ西行谷下苧十一工半 十三錢宛代金払取替分正ニ請取候也

廿二年九月廿日

金峰神社

社務所 印

芳雲社会計掛御中

・

証

一 金四円十錢五厘

右下苧代正ニ請取申候也

廿四年七月三日

内出房太郎?

・

記

一 金三十錢

但シ桜大苗四十本下千本へ植付工二工代

右正ニ請取申候也

廿五年四月十日

中川久七

外二人

芳雲社出納方

古澤龍敬殿

案内中ヨリ納金 控

十四年四月一日

一 金七円也 十四年初宮取次

十五年二月十八日

一 〃七円也 十五年度右取次宮

十六年八月十

一 〃七円也 同十六年度北野取次全引込ミ

十八年二月六日入

一 〃三円五十銭也 十七年度分全人引込ミ

廿年正月入

一 〃七円也 △十八年十九年二ヶ年分山口入

廿年五月十三日入

一 〃三円五十銭也 △廿年度分宮取次山口入

廿一年五月五日入

一 〃五円也 △廿一年度分右取次山口入

廿三年三月一日入

一 〃五円也 △廿二年度分右次山口入

△印二十円〇五十銭

廿三年分

一 金四円七十七銭七厘 古澤預リ

一人不納ニ付不足ス 三十六銭七厘ツヽ十四分之内不納

廿四年分二月廿六日入

一 〃二円五十銭 全人預リ

半減ニ致シ□フス、十八銭ツヽ十四人分二銭通トナル

右ハ廿四年十月廿九日案内所持請取帳ヲ以テ取調記ス

證

一 金一円十三銭也 但工数九工代

右ハ西行尾桜山下苧工料金当社より取替払置分返済相成正ニ請取候也

明治廿三年八月廿二日

金峰神社

社務所 印

芳雲社

出納掛御中

証

一 金一円十五錢也

但陸軍騎兵大尉石原吉弘全砲兵中尉池原熙兩氏ヨリ桜樹二十三本代寄附

一 全一円也

但近衛參謀陸軍工兵中佐鮫嶋達雄氏ヨリ□樹二□代寄

一 全二十錢也

但京都高等中学校在勤近藤堅三氏ヨリ□樹四本代寄附

計金二円三十五錢也

右金員貴殿御呈次之分正ニ請取候也

明治廿三年四月廿四日

山口謙藏 印

古沢龍敬殿

中谷奈良吉 廿三年度分、三十六錢七厘入

杉本勝次郎 〃

山本久平 〃

飯田梅吉 〃

飯田熊藏 〃 庄松

飯岡太吉 〃

加藤寅吉 〃 川嶋□吉

玉崎宗八 〃

前田金平 〃

浅田善太郎 〃 幸田□□

木村奈良吉 〃

中谷久吉 〃

車谷茂八 〃

吉本栄太郎 廿三年度分、三十六錢七厘不納

計十四名

廿三年納金高一人ニ付三十六錢七厘ツト十四合五円十三八厘通上  
 自今一名ニ付三十五錢八厘ツトス  
 合計金五円〇一錢二厘ナリ  
 芳雲社が 36 錢 7 厘の会費を集めていたのか？ 14 名は何を意味しているのだろうか。

元実城寺跡当冬ヨリ実地ハ随意ニ開キ来十四年ヨリ十六年迄三ヶ年ヲ先トシテ無税、  
 翌十七年ヨリ明治三十三年迄十七ヶ年先年季其期合二十ヶ年季之事

- 一 租税ハ口安ニ而半額大口半納毎年新曆六月三十日口納、十一月三十日限大口納之事
- 一 崖江櫛口之類植付候ハ可為勝手候へ共、茂ル樹木ヲ植付候而ハ他家之所持地ニ差支候而ハ不宜ニ付、右ニ程之外植付旨時ハ当社開類地之持主ト尔談之上可為事
- 一 右地植付之木者口期之節を、上木ハ小作人伐取株ハ相当代価ニ而当社へ可買取事
- 一 実情寺古跡之印トシテ何之松ノ木保護可致、尤前左右一間ヲ実地ニ可致置事
- 一 桜樹ハ現在アルヲ保護シ、前左右前同様耕作ヲ可除事
- 一 桜之下ニ而アクタ之類フスベ間敷事
- 一 当今崖ニ有之樜其他ノ樹木ハ来十四年十月中迄ニ為伐取可申事

\*最後に「来十四年十月中迄ニ」とあることから明治十四年頃の芳雲社の社訓か

- 一 八斗五升 飯野  
     内一斗引 $\sphericalangle$ 七斗五升
- 一 三斗 菅原  
     又二斗まし $\sphericalangle$
- 一 四斗 藤井
- 一 四斗五升 谷田  
     又二斗 $\sphericalangle$ 六斗五升
- 一 一石五升 平井  
     又二斗増 $\sphericalangle$ 一石二斗五升
- 一 四斗六升五合 岩田政治  
     又二斗二升増 $\sphericalangle$ 六斗八升五合
- 一 六斗八升 山野？  
     又三升増 $\sphericalangle$ 七斗一升
- 折裏面
- 一 一斗五升 国井  
     又五升まし $\sphericalangle$ 二斗
- 一 二斗 菅原

増

- 一 一斗二升 岩田
- 一斗増~~ズ~~二斗二升
- 一 一斗引 飯野
- 一 三升 山本？
- まし

\* 社員の俸給のことか？不詳

・  
\* 資料は仕事量の控えらしい。名前は勝太郎、林八、庄之助で一工から半工まで裏面最後に  
    ~~ズ~~二十工

此工料金二円六十銭

庄之助 印

山口様

右正ニ受取候也

二ノ時明治廿一年七月十一日

とあり三人の仕事（内容は不明）賃金を庄之助が受け取った旨である。

・  
蔵王堂の調査

・  
山上蔵王堂と吉野山蔵王堂の由緒

大峯山上蔵王堂

由緒 天武天皇白鳳年間役小角創業ニシテ大峯山上蔵王堂ト称シ候処、御趣意ニ依リ明治七年郷社金峰神社奥宮ト改正セラレ、然ル処衆庶歎願ニ因テ大峯山上蔵王堂ト復旧上願濟相成ル

一 山下蔵王堂 吉野山町中央ニアリ

由緒 聖武天皇天平勝宝年僧行基大峯山上蔵王堂ヲ模造シ安置シテ山下ノ蔵王堂ト称シ、来リ候処、御趣意ニ因テ郷社金峰神社口宮ト改称セラル、然ル処衆庶信徒ノ歎願ニ因テ明治十九年ノ五月旧称ノ如ク山下蔵王堂ト復旧上願濟ニ相ル

・  
(封筒表書)

□国吉野郡吉野山

蔵王堂総代十ノ六八〇

山口謙藏殿

書留

芳雲社書類

・

(封筒裏書)

日本銀行奈良代理店

裏 無地

・

(封筒表書)

書類が入っていた。

・

(封筒裏書)

・

舌代

一 文字ハ四十五字

代二円廿五銭

外ニ炭代十二銭

又三工此分ハ本人ト御尔談可被下候

一 愚歟三工定メ日当

右御勘定ノ御払渡可被下候

四月廿三日

古沢龍敬

山口謙藏殿

・

証

一 金十八銭也

右者預リ申候車田□□功府替金シ御座候間同人掌可下候度候也

五月一日

山本拝

山口様

先刻御尋問之通り上市兩人より戻りたるケツトハ竹林院へ買受、則代金ハ其後御勘定済ニ相成候様相心得居候条此段御答申上候也

一月十日

古澤龍敬

山口賢兄大人

当今計算ノ表左ニ

□五□月 十三年九月分、十四年一月、□

〃九月 三十七錢五厘

元利〆百五十九圓三十錢五厘

六月入

証

一 金一圓六十錢

右者大坂光天日講ト天王寺大日講幟戻代

并□詣内米□□□代

一 〃三圓六十錢

右取調大坂行六工旅費

右者開帳掛りより御払相成候也

十九年一月廿日

山本

山口謙藏様

記

十三年九月

一 本金百五十圓也

内

金六十圓也 十四年二月元利之内より受取入ル

此仕分ケ

十一圓廿五錢 十三年九月より十四年二月迄六ヶ月間年一割五分之利

四十八圓七十五錢 本金入

差引錢

本金百〇一円廿五銭

十四年三月より十六年十二月迄三十四ヶ月年一割五分之利

四十三円〇五銭一厘

処□

四十三円六十二銭五厘 十六年十二月 米十石代山口□より入ル

二円六十五銭六厘 現金ヲ以岩崎永次入ル

□〆四十九円廿八銭一厘 入ル

此仕分ケ

四十三円〇三銭一厘 十六年十二月迄之利

六円廿五銭 本金円入

差引銭

本金九十五円也

拙子出納役中ノ勘定詰ハ有之通りニ相成、是ハ出納行渡帳へ記載置有之候

本金九十五円也

右十七年一月より十九年一月迄廿五ヶ月年一割五分之利

二 十九円六十八銭七厘五毛

処□

二十円〇四十銭

併玄米三石代候ニ付六円八十銭遣、十八年一月入ル

是分十八年一月迄ノ利ヲ勘定スレハ、通金ニ相成候故前ノ如ク元利へ区分シテ入ル  
哉可然御□計之事

右之通り福田和七勘定ニ相成候様存候間此段回答申上候□哉、就分廉アレハ何時ナリ  
共出頭詳細可申述候得共不取敢御答之不□

一月十七日

大橋鏢輔

山口殿

記

一 金四円三十銭〇三厘

右ハ西行谷山桜植込地之開ニ付、人足六十九工部落金工料米六斗五升三合候ニ付、六円六十銭之割当秋より取替払置分正ニ請取候也

明治十九年一月廿八日

金峯神社

社務所 印

芳雲社御中



証

一 金七十二錢也

但森下庄吉□谷嶋吉分

右者当春御□□苗植附手間九工代相渡置候間御渡相成度候也

十九年十月十八日

前坊常磐 印

芳雲社出納方

山口殿

記

一 金五円二十五錢六厘

右者西行庵建築以来受払残金前記之通ニ付、則□金相廻し候間御入掌可被成候也

十九年五月八日

前坊常磐

山口殿

記

一 金五円二十五錢六厘

内

四円八十七錢五厘

別紙□□状払□□□三十八錢七厘

右為持上候間御□ノ上御入掌可□候

五月八日

前坊

山口殿

証

一 金四円也

右者芳雲社便候如意輪寺添山下芍工料ノ内へ前□リ古沢殿へ相廻シタル分、正ニ受取  
申候也

十九年一月九日

前坊常磐 印

山口殿

証

一 金二十二円四十二銭八厘

右者開帳掛り出納勘定通人□正ニ請取申候也

十九年四月廿日

村□□□掛

山本文蔵 印

開帳掛り出納方

山口謙蔵殿

記

一 金二円九十三銭

右ハ開帳□残シ堂屋根葺替ニ付人足三十九工増共、工料米四斗四升四合候ニ付六円六十銭之割当社より取替払置分正ニ請取候也

明治十九年一月廿八日

金峯神社

社務所 印

開帳掛會計方御中

記

一 七円五十銭二厘

是ハ西行谷桜山地開并植付人足百十工一人ニ付一銭一合ツヽ、米一石二斗一升代六円廿銭□□

一 一円八十二銭二厘

是ハ右同所下苧廿三工、一工ニ付一升二合ツヽ此米二斗七升六合代六円六十銭□□

一 九十銭〇七厘

是ハ如意輪寺墓植付用榛？苗千六百七十本代

□メ金十円〇廿三銭一厘

右取替代金正ニ請取候也

十九年十月

金峰神社 印

芳雲社会計掛御中

記

- 一 金一円廿五銭 帳面十冊代
- 一 全七十五銭 芳雲社印大小二顆代
- 一 全二円十銭 桜井、平井、嶋田其外へ進物代、但六〇〇ス
- 一 全八銭 受取証ニ貼用五厘印紙代
- 一 全八十二銭 郵便税其他人力車代等雑費

、金五円也

右者前年東京ニ而桜樹寄進頼ニ付入費金ニ御座候也

一月十六日

宮城晋一

芳雲社出納方

山口謙藏殿

やねすき

- 一 六工 十一月三十日より十二月五日まで木村猶吉
- 一 六工 十一月三十日より十二月五日まで三〇〇藏
- 一 六工 十一月三十日より十二月五日まで幸田勝太郎
- 一 六工 十一月三十日より十二月五日まで吉田〇〇
- 一 六工 十一月三十日より十二月五日まで松本省三
- 一 六工 十一月三十日より十二月五日まで〇田〇藏

但七歩立

- 一 三工 十二月三日より十二月五日まで辻本米吉

、三十九工

内

三十三工 二合増、代三斗九升六合

六工 一合増、此四升八合

、四斗四升四合

記

- 一 金七円也

右者十八十九兩年分古跡案内人冥加金為指上候間、御受取可被上候也

二月九日

宮城晋一

芳雲社幹事

山口謙蔵殿

過日受取証ハ案内人惣代加藤□吉宛ニ而此便へ御□被下□

記

即今開雇掛リ仕舞□売払之一間（件か）チツト□放状？、慥ニ二十錢位下至候、則代金古澤殿江相渡も申候ニ付、若不明ニ御座候得ハ尔後古沢護君へ御尋可□候様御依頼申上候也

一月十二日

森下□□

山口謙蔵様

郵便局の請取證書、二円七十錢、受取人は大阪朝日新聞、事案は不明

付箋は不明

記

一 金九十錢也

右ハ字塔之尾添山下苧賃受取方、前書之通正ニ受取候也

明治廿年八月五日

堺谷□□ 印

芳雲社御中

証

一 金五円九十二錢五厘也

右者実城寺跡立木林長五郎入札払ニ付、衆議実補雲払申ヨリ補金正ニ受取御事

十三年十二月十四日

村総代 印

古澤龍敬殿

・下苧代金の仕事量の太福帳、内容明細は省略する

表紙面は

「明治廿五年七月廿九日

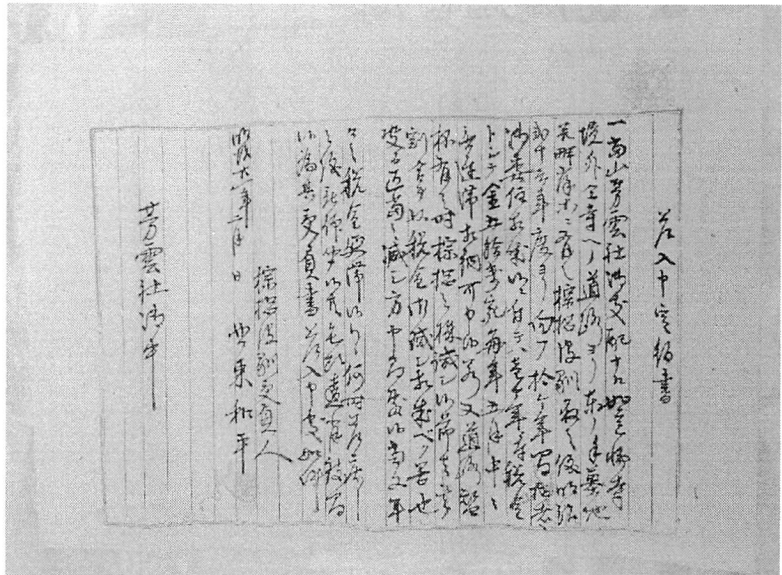
花山下蒔代 工附帳

区長代理平尾喜平」

・差入申約定書

差入申約定書（明治 21 年二月の日付）

一 当山芳雲社御支配ナル  
 如意輪寺境外全寺へノ道  
 路ヨリ東ノ手墓地并畔崖  
 等ニ有之棕（欄）皮剥取之  
 儀、明治二十一年度ヨリ  
 向フ十ヶ年間拙者へ五位  
 人相成候ニ付テハ一ヶ年  
 ニ付税金トシテ金五十銭  
 宛毎年五月中ニ無延滞相  
 納可申候（段）又道路替等  
 有之時棕（呂）之株減シ候  
 節者其割合ヲ以減シ方申  
 滞無□□□致間候為其受  
 負書差入申処如件



明治廿一年二月 日

棕（欄）皮

剥受負人

北東和平

㊦

芳雲社御中

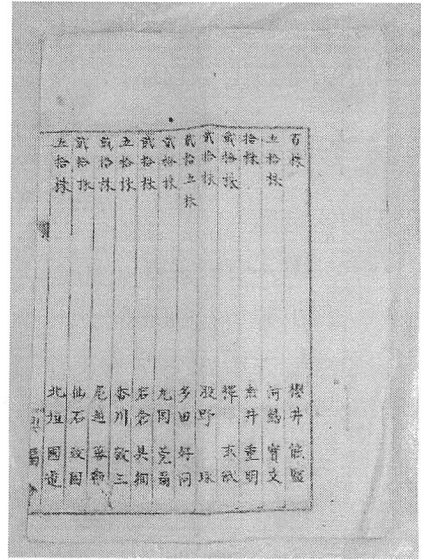
○興福会による桜樹の寄進明細帳（次頁の図）

興福会とは興福寺復興のために組織された会、本数日時などの明記はない。興福会は桜樹をたくさん寄附している。

(芳雲社の人事? 紙片である。7名の名前のみ)

幹事

古沢、高城、山口、吉川、福井、前坊、□□



証

一 桜山下ヨリ道下 八工

内訳

三工 尾崎

一工 川惣 (これらは屋号?)

二工 山徳

二工 森山

ノ

全道上 九工半

内訳

四工 尾崎

三工 山徳

二工半 森山

廿六年八月廿二日

合十七工半

右之通り御座候也

森山三郎

区長古沢様

証

一 金五十銭

右ハ芳雲社係貸金督促ノ為増口椿井吉郎平へ引合四度辛苦料

但廿五年九月二日、十月廿六日、十一月五日、十二月八日椿井行二度、全用ニ付六田内田嘉吉方へ引合両度、右正ニ請取申候也

明治廿六年二月十四日

吉野山北東和平

芳雲社出納方

古澤龍敬殿

証

一 金十九錢也

右下千本并ニ黒門下手へ桜三十二本間植、午後ヨリ二人一工二歩ノ工料正ニ受取候也

明治廿六年四月五日

中川久吉 印

外一人

芳雲社御掛

古澤龍敬殿

証

一 金五十錢也

右ハ名所案内持？株、吉野宮并丹治ニヶ所へ建設費之内へ補助被成下正ニ受取申候也

明治廿六年四月廿六日

山本久平

杉本勝治郎

古澤龍敬

証

一 金二円十二錢五厘

右ハ如意輪寺桜山之内根本計リ三四尺下刈口切八工、全墓地桜山惣メ下刈九工半計十七工半

一工ニ付十五錢ツヽ手スグリ人代金正ニ請取候也

明治廿六年八月廿二日

惣代森山房三郎 印

外三名

区長芳雲社御掛リ

古沢様

証

一 桜山下ヨリ道下 八工

内訳

三工 尾崎  
一工 川惣  
二工 山徳  
二工 森山

✂

全道上 九工半

内訳

四工 尾崎  
三工 山徳  
二工半 森山

廿六年八月廿二日

合十七工半

右之通り御座候也

森山三郎

区長古沢様

証

一月廿日

一 金二十銭 訴訟印紙代  
一 〃廿七銭五厘 筆工中岡平八へ書面認め料  
一 〃廿七銭 五條町柏原方ニテ一中一泊料

廿五日

一 〃一円五十銭 裁判所へ保証金預ケ入  
一 〃廿七銭 全町柏原ニテ一中一泊料  
一 〃廿五銭 井ノ上医師へ診談書認め料  
古沢氏病氣申立ツルニ付必用  
一 〃廿九銭三厘 五条へ兩度往返車賃小遣共  
一 〃一円 右五条行四工 一月十九日、廿日、廿四日、廿五日

計金四円〇五銭八厘

右ハ先年芳雲社ヨリ増口椿井吉郎平へ賃金滞リニ付五条区裁判所起訴入費金正ニ受取候也

明治廿六年二月十四日

吉野山北東和平 印

芳雲社出納方



古澤龍敬殿

\*当時の五条での宿泊費などが分かる。吉野山から五條への道程は南和鉄道の開通は現吉野口まで明治か。

証

一月廿日

一 金二十銭	訴訟印紙代
一 〃廿七銭五厘	筆工中岡平八へ書面認め料
一 〃廿七銭	五條町柏原方ニテ一中一泊料

廿五日

一 〃一円五十銭	裁判所へ保証金預ケ入
一 〃廿七銭	全町柏原ニテ一中一泊料
一 〃廿五銭	井ノ上医師へ診談書認め料
	古沢氏病氣申立ツルニ付必用
一 〃廿九銭三厘	五条へ兩度往返車賃小遣共
一 〃一円	右五条行四工 一月十九日、廿日、廿四日、廿五日

計金四円〇五銭八厘

右ハ先年芳雲社ヨリ増口椿井吉郎平へ賃金滞リニ付五条区裁判所起訴入費金正ニ受取候也

明治廿六年二月十四日

吉野山北東和平 印

芳雲社出納方

古澤龍敬殿

\*当時の五条での宿泊費などが分かる。吉野山から五五條への道程は南和鉄道の現吉野口から乗り換え。。

(封筒)

吉野山 案内御中

取締役方 杉本勝治郎

(手紙本文)

去ル廿五年度分芳雲社へ納金今ニ延引被致如何之事ニ候哉、是非共兩三日之内急度取纏メ納金致事

明治廿六年三月十三日

芳雲社

仮社長古澤龍敬 印

一 金二円也

同年三月廿一日納

案内御中

一 金七十円也

但椿井吉郎平借用金御勘弁ニ付元利共前記ノ通り相済? 候也

外ニ金二円

但五條区裁判処へ訴訟セシ入費ノ内前記ノ通ニテ相渡候也

計金七十二円

右相渡候也

明治廿六年三月十日

内田七郎 印

米田六太郎 印

古澤龍敬殿

此間御願申置候処、□□甚手元不都合ニ付、誠ニ申兼候得共此□へ御渡レ□□古澤ニ付候也

証

一 金十九錢也

右下千本并ニ黒門下手へ桜三十二本間植、午后ヨリ二人一工二歩ノ工料正ニ受取候也

明治廿六年四月五日

中川久吉 印

外一人

芳雲社御掛

古澤龍敬殿

証

一 金五十錢也

右ハ名所案内持? 株、吉野宮并丹治ニヶ所へ建設費之内へ補助被成下正ニ受取申候也

明治廿六年四月廿六日

山本久平  
杉本勝治郎  
古澤龍敬

證

一 金二円五十錢

右ハ明治廿三年夏□ヨリ廿五年冬□迄二年半分旧郡□場也小作金正ニ領収候也

明治廿六年十二月廿八日

金峯山寺宮繕係

宮城宏年 印

芳雲社御儀 古澤龍敬殿

宛

明治廿七年一月

一 金五円五十錢

右者南都宇野村之方へ出張申請

二月方三月迄

金十円也

右ハ南都并紀州之方へ出張可申候

右金円大橋様并ニ案内銘々

方相出し申候

記

明治廿七年一月

一金五円三十錢

右者南都并宇野村之方へ

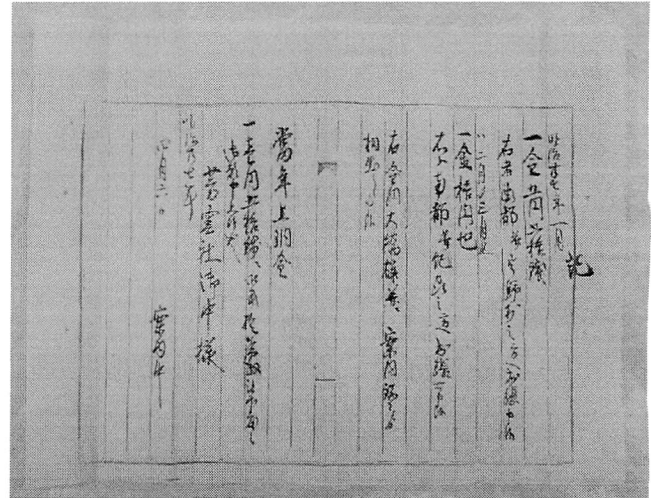
出張申候

同二月方三月迄

一金十円也

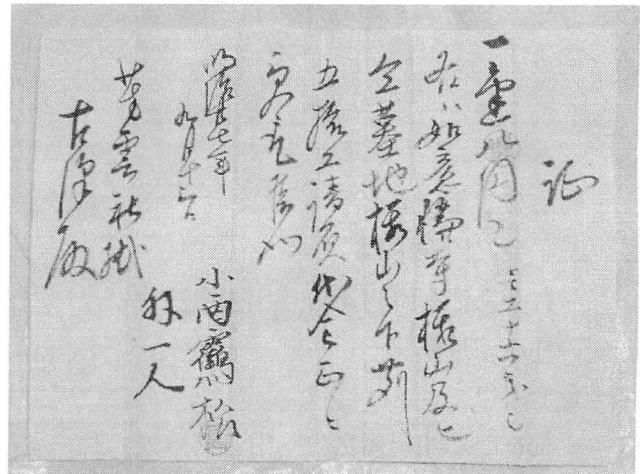
右ハ南都并紀州之方へ  
出張可申候  
右金門大橋様并ニ案内所方  
相出シ申候  
当年上期上納金  
一円五十銭に御用於為成被下度候御願  
申上候也

明治廿七年四月六日  
芳雲社御中様  
案内中



証  
一 金八円也 一工十六銭也  
右ハ如意輪寺桜山及ヒ全墓地  
桜山之下刈五十工請負代金正に受取候  
也

明治廿七年九月十三日  
小西口松 印  
芳雲社掛古澤殿



\*この支払が芳雲社資料(東になったもの)の最後である。吉野山では「吉野公園」が認可となり発足した。芳雲社の役目が県に引き継がれたのである。

芳雲社は最初堺県に次に大阪府に奈良が併合されると大阪府へ許可申請を行い許可を得て桜花の植栽等を行い保全に尽くした。その他西行菴の維持など桜の保全に務めた。その業績はこの資料に残っている。